

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 〈目次〉

- 1 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況 . . . . . 2
  - 1 - 1. 学生の確保の見通し
  - 1 - 2. 学生納付金の考え方
  - 1 - 3. 学生確保に向けた具体的な取り組み状況
  
- 2 人材需要の動向等社会の要請 . . . . . 9
  - 2 - 1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
  - 2 - 2. 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの根拠
  - 2 - 3. 本学博士後期課程修了生に対する社会のニーズと採用ニーズ：アンケート調査結果

## 1. 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

### 1-1. 学生の確保の見通し

#### 1) 定員設定の考え方

獨協医科大学（以下、「本学」と記載）が所在する栃木県（以下、「本県」と記載）並びに北関東圏に、看護系博士後期課程を設置する大学は7大学ある（資料1）。それらの大学の中で、看護学研究科として博士後期課程（以下、「看護学研究科博士後期課程」と記載）を設置するのは3大学である。3大学の1学年の入学定員は、自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程が2名、群馬県立県民健康科学大学大学院看護学研究科博士後期課程が2名、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程看護科学専攻が8名となっており、過去4年間の3大学の入学者数を見ると、一部欠ける年度もあるが、概ね入学定員を満たしている。

また、3大学における教員一人当たりの学生数は、自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程は、教員数14名に対して収容定員6名（入学定員2名）で0.43人、群馬県立県民健康科学大学大学院看護学研究科博士後期課程は、教員数14名に対して収容定員6名（入学定員2名）で0.43人、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程看護科学専攻は、教員数20名に対して収容定員24名（入学定員8名）で1.20人となっている。獨協医科大学大学院看護学研究科博士後期課程（仮称）（以下、「本学博士後期課程」と記載）では、教員数18名、収容定員9名（入学定員3名）の予定であり、教員一人当たりの学生数は、0.5人の見込みである（資料2）。

以上のような、本県並びに北関東圏に所在する看護学研究科博士後期課程における入学者の状況、教員一人当たりの学生数、そして、本学博士後期課程における教員組織、学修環境等を総合的に勘案し、本学博士後期課程の入学定員を3名と設定した。

#### 2) 定員充足の見込み

##### (1) 本県並びに北関東圏に所在する看護学研究科博士後期課程看護学専攻の志願状況

本県並びに北関東圏に所在する看護学研究科博士後期課程を設置する3大学における過去4年の入学者状況は、概ね、入学定員を満たしている。（前掲資料1）。また、保健学等の他の保健医療福祉系専攻の博士後期課程と同一課程として看護系博士後期課程を設置する茨城県立大学大学院等の4大学も、看護学専攻の入学定員や入学者数は不明であるが、過去4年間、概ね、入学定員を満たしている（前掲資料1）。このことから、本県並びに北関東圏において、看護学研究科博士後期課程を含む看護系博士後期課程への進学ニーズは、高い状況にあると考えられる。

他方、本県並びに北関東圏に所在する看護系学部を設置する27の看護系大学のうち、15大学に看護系大学院として博士前期課程（修士課程）が設置されている。しかし、博士後期課程を設置する大学は8大学に留まっている（資料3）。このことから、本県並びに北関東圏において、看護系博士後期課程への進学ニーズは、十分に満たされている状況とはいえ

ないと考える。したがって、博士後期課程を設置しない看護系大学院博士前期課程（修士課程）の修了生はもとより、在学生からの本学博士後期課程への進学ニーズがあることが見込まれる。また、獨協医科大学大学院看護学研究科修士課程（令和5（2023）年4月の看護学研究科課程の変更に併せ、博士前期課程に改称する。以下、「本学博士前期課程」と記載）の入学者数（入学定員10名）は、一部欠ける年度もあるが、ほぼ満たしており、それに応じて、修了生も輩出している（資料4）。このことから、本学博士前期課程修了生や在学生からの進学ニーズも見込まれる。

## （2）定員充足の根拠となる調査結果の概要

本学博士後期課程への進学が見込まれる本県並びに北関東圏に所在する医療機関（59施設）に勤務する看護職員並びに教育機関（23校）に勤務する看護教員等、本学博士前期課程修了生、本学看護学部教員等を対象に、入学意向に関するアンケート調査（以下、「入学意向調査」と記載）を実施した（調査対象者数：292名）。アンケート調査は、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所へ委託し、令和3年11月に実施した（資料5）。

入学意向調査（有効回答者数：89名）において、看護系博士後期課程への入学意向を示した78名を対象に、本学博士後期課程への興味・関心について尋ねたところ、「興味・関心がある」が47名（60.3%）と最も多く、次いで「大いに興味・関心がある」20名（25.6%）であり、67名（85.9%）が本学博士後期課程への興味・関心を示す結果であった。なお、「興味・関心はない」は、10名（12.8%）であった（表1）。

表1：本学博士後期課程への興味・関心について（N=78、「入学意向調査」）

カテゴリ	件数	(全体) %
大いに興味・関心がある	20	25.6
興味・関心がある	47	60.3
興味・関心はない	10	12.8
無回答	1	1.3

また、本学博士後期課程に興味・関心を示した67名を対象に、本学博士後期課程への入学意向について尋ねたところ、「入学を希望する」が26名（38.8%）と最も多く、次いで「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」22名（32.8%）、「開設時ではないが、5年以内の入学を検討する」8名（11.9%）であり、本学博士後期課程への入学について56名（約84%）が肯定的な回答を示す結果であった。なお、「わからない」9名（13.4%）、「入学を希望しない」1名（1.5%）であった（表2）。

表2：本学博士後期課程への入学意向について (N=67, 「入学意向調査」)

カテゴリ	件数	(全体)%
入学を希望する	26	38.8
開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	8	11.9
将来、必要を感じた場合には入学を検討する	22	32.8
わからない	9	13.4
入学を希望しない	1	1.5
無回答	1	1.5

本学博士後期課程への興味・関心及び入学意向についての結果をクロス集計したところ、以下の結果となった(表3)。

表3：本学博士後期課程への興味・関心及び入学意向についてのクロス集計結果

		興味・関心		
		合計	大いに興味・関心がある	興味・関心がある
入学意向	全体	67 100.0	20 29.9	47 70.1
	入学を希望する	26 100.0	18 69.2	8 30.5
	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	8 100.0	2 25.0	6 75.0
	将来、必要を感じた場合には入学を検討する	22 100.0	0 -	22 100.0
	わからない	9 100.0	0 -	9 100.0
	入学を希望しない	1 100.0	0 -	1 100.0
	無回答	1 100.0	0 -	1 100.0

本学博士後期課程に「入学を希望する」と回答した者は、「大いに興味・関心がある」18名、「興味・関心がある」8名の計26名となり、入学定員3名に対し、約8.7倍の入学意向が示された。また、本学博士後期課程に「入学を希望する」、「開設時ではないが、5年以内の入学を検討する」、「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」との肯定的な回答をした者は、「大いに興味・関心がある」で20人、「興味・関心がある」で36人、合計で56人となり、入学定員3名に対し、約18.7倍の入学意向が示された。さらに、入学意向調査で「わからない」と回答した9名も「興味・関心がある」と回答していることから、将来的に進学を希望する者が出る可能性も考えられる。

これらより、開設時、中長期的な観点から、本学博士後期課程への進学ニーズや進学する可能性があることが示されたと考えられる。したがって、本学博士後期課程の入学定員3名の確保は十分に可能であり、定員の充足が見込まれる。

他方、同じく第三者機関が、本学博士後期課程修了生の進路として就職が見込まれる1都7県（栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、兵庫県）の医療・教育機関等99施設を対象に実施した採用意向に関するアンケート調査（以下「採用意向調査」と記載）の結果（有効回答数：54件）（資料6）から、博士後期課程修了生を「採用したい」若しくは「採用を検討したい」との採用意向を示した52施設を対象に、本学博士後期課程に対する興味・関心について尋ねたところ、「興味・関心がある」が36件（69.2%）と最も多く、次いで「大いに興味・関心がある」15件（28.8%）、「興味・関心はない」1件（1.9%）であった（表4）。

表4：本学博士後期課程への興味・関心について（N=52, 「採用意向調査」）

カテゴリ	件数	(全体) %
大いに興味・関心がある	15	28.8
興味・関心がある	36	69.1
興味・関心はない	1	1.9
無回答	0	0.0

また、本学博士後期課程の社会的必要性について、「とても必要だと思う」若しくは「ある程度必要だと思う」との肯定的な回答を示した50施設を対象に、看護職員の入学奨励について尋ねたところ、「積極的に勧める」が27件（54%）、「一応勧める」が4件（8%）、「条件が合えば勧める」が17件（34%）であった（表5）。

表5：本学博士後期課程への看護職員の入学奨励について（N=50, 「採用意向調査」）

カテゴリ	件数	(全体) %
積極的に勧める	27	54.0
一応勧める	4	8.0
条件が合えば勧める	17	34.4
わからない	2	4.0
勧めない	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	0	0.0

さらに、本学周辺は、鉄道等の公共交通機関が整っており、また、高速道路も整備されている。中でも、北関東自動車道壬生インターチェンジからは至近距離にあり、東北自動車道栃木インターチェンジや鹿沼インターチェンジからの通学も容易に可能である。したがって、通学に係る利便性は高く、負担感は低いと考えられる。さらに、本学博士後期課程では、

学生の状況に応じて、オンラインによる授業・指導を可能とすることから、調査対象以外の医療機関並びに教育機関からの進学も想定される。これらから、継続的な学生の確保が可能であることも見込まれる。

## 1 - 2. 学生納付金の設定の考え方

本学博士後期課程は、看護系大学等の高等教育機関や保健医療福祉関連の研究機関等に勤務する教育・研究者や、病院等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者等の社会人を中心に多様な人材を幅広く受け入れる。そのため、学生納付金は、学修環境や教育の質を維持しつつ、学生に過重の負担とならないように、また、本県並びに北関東圏に所在する看護系博士後期課程との均衡を考慮しつつ、やや低く設定した（資料 7）。

なお、本学には奨学金制度が整備されており、制度を利用することにより、経済的負担の軽減は可能となっている。

本学博士後期課程の学生納付金は、以下の通りである。

表 6：本学博士後期課程の学生納付金

年次	入学金	授業料	合計
1 年次	200,000 円	600,000 円	800,000 円
2 年次	—	600,000 円	600,000 円
3 年次	—	600,000 円	600,000 円

## 1 - 3. 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学博士後期課程は、社会から信頼され、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献するとともに、看護学の発展に寄与するため、高い倫理観を持って看護学上の課題を探究し、その解決に向けて幅広い視野に立脚しながら、科学的手法を用いて高度な看護学研究を自律して遂行できる教育・研究者の養成を目指す。

### 1) 本学博士後期課程における学修環境の整備による働きかけ

本学博士後期課程の学生は、看護系大学等の高等教育機関や保健医療福祉関連の研究機関等に勤務する教育・研究者、病院等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者等の社会人を中心に想定している。したがって、学生が社会人として仕事を継続しながらも修学できるように学修環境を整える。

まず、大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を実施する。このことで、平日夜間帯や土曜日、夏期休業期間及び冬期休業期間においても授業が開講できる体制とする。また、長期履修制度（大学院設置基準第 15 条）を設け、最大 5 年まで在学年限を延長できる体制とする（資料 8）。さらに、仕事等の都合により登校できない学生に対しては、状況に応じて、オンラインによる授業や研究指導を可能とすることで、対面授業・指導を受ける学生と遜色のない学修環境と教育・指導を提供する。

本学博士後期課程におけるこれらの学修環境については、本学ホームページ等を通じて広く周知することで、学生確保に向けて取り組んでいく。

## 2) ホームページやオープンキャンパス等を活用した広報活動による働きかけ

本学ホームページやオープンキャンパス、パンフレット、リーフレットに加え、新聞広告、テレビやラジオ CM 等の各種メディアを活用して広報活動を展開する。

現在、広報活動の中心的な役割を担っている本学ホームページには、本学博士前期課程の概要や教員からのメッセージ（領域紹介）の動画が掲載されており、動画を視聴することで進学する学生も多い。今後は、本学博士後期課程における教育課程、学修環境、学修内容・専門領域、博士論文作成スケジュール、博士論文審査基準、入試情報、納付金、担当教員からのメッセージ（領域紹介）の動画等の概要も掲載する計画である。

また、本学大学院研究科では、オープンキャンパスを年に 2 回開催しており、本学博士前期課程に係る個別相談や領域紹介、担当教員や学生の研究紹介等を行っている（資料 9）。令和 2 年度及び 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、関連動画を本学ホームページに掲載している。関連動画は年間を通じて視聴が可能であり、令和 3 年度の再生回数は 200 回以上となっている（令和 4 年 2 月末）。加えて、個別キャンパス見学や担当教員との個別相談（WEB 相談も可能）も、年間を通じて実施している。今後は、本学博士後期課程の概要を関連動画に追加して広報活動を行っていく。

広報活動は広く展開していくが、本学博士後期課程への進学及び修了生の進路として見込まれる本県並びに北関東圏は特に積極的に展開し、学生確保に向けて取り組んでいく。

## 3) 看護系大学等の教育・研究機関に勤務する教育・研究者への働きかけ

本学博士後期課程の学生として、看護系大学等の教育・研究機関に勤務する教育・研究者が想定されることから、特に、教員に対して働きかけ、学生確保に向けて取り組んでいく。

まず、本学教員の知り合いや共同研究メンバー等の直接的なつながりのある教員に積極的に働きかけていく。また、本県並びに北関東圏において、看護系博士後期課程への進学のニーズは十分に満たされている状況とはいえないと考えられることから（前掲資料 3）、これらの看護系大学等に勤務する教員に対して、教員間のつながりを活用して働きかけていく。さらに、本学教員が所属する看護系学会をはじめとする学会において、直接的・間接的に働きかける。

他方、学校法人獨協学園は、獨協医科大学附属看護専門学校と獨協医科大学附属看護専門学校三郷校の 2 つの看護専門学校、看護学部を設置する姫路獨協大学を有することから、これらの教育機関に勤務する教員に積極的に働きかけていく。看護専門学校には、修士の学位を保有しない教員が在籍していることも多い。このような教員には、本学博士後期課程への進学を視野に入れた本学博士前期課程への進学についてのガイダンスを行い、学生確保に向けて取り組んでいく。

## 4) 保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者への働きかけ

本学博士後期課程の学生として、病院等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者が

想定されることから、看護職者への働きかけは重要となる。

まず、地域共創看護教育センター事業を通じて学生確保に向けて取り組んでいく。地域共創看護教育センターは、地域社会における健康課題等をテーマとし、地域社会の保健医療福祉の質の向上への寄与並びに地域社会に貢献できる看護職者の養成を目的として、地域貢献事業並びにキャリア開発事業を実施している（資料10）（資料11）。キャリア開発事業の主たる対象者は看護職者であり、令和3年度は、「Advanced Practice Nurse（APN）看護研究会」等の6つの事業を実施している。各事業ともに本県内を中心とした多くの看護職者が参加していることから、直接的に働きかけていく。また、本学教員との直接的なつながりのある看護職者、本学教員の共同研究メンバーや研究指導を担当する病院等の保健医療福祉機関に勤務する看護職者にも、積極的に働きかけていく。

他方、本学は、獨協医科大学病院、獨協医科大学埼玉医療センター、獨協医科大学日光医療センターの3つの関連病院を有する。関連病院には、本学博士前期課程に在籍する看護職者も多く、また、修了生も多く輩出している。これらの在学学生、修了生である看護職者を中心に関連病院に勤務する看護職者へ積極的に働きかけるとともに、つながりのある他の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者にも間接的に働きかけていく。

さらに、本学教員は、看護職者の職能団体である公益社団法人栃木県看護協会や、一般社団法人日本精神科看護協会の委員会の委員を務めたり、研修会の講師を担当することも多く、関係性が深い。このような職能団体との関係性を通じて、本県内の看護職者へ広く働きかけを行っていく。

修士の学位を保有する看護職者の中には、博士後期課程の進学ニーズを持っているものの、仕事等の都合上、進学を決めかねることもありうる。そのような看護職者に対しては、本学博士後期課程の学修環境について情報提供することで、進学を働きかけていく。また、修士の学位を保有しない看護職者には、本学博士後期課程への進学を視野に入れた本学博士前期課程への進学についてのガイダンスを行い、学生確保に向けて取り組んでいく。

##### 5) 本学看護学部卒業生および本学博士前期課程修了生及び在学学生への働きかけ

本学看護学部卒業生は、看護職として、4割以上が本県内の保健医療福祉関係機関に就業している。また、本学博士前期課程修了生は、本県はもとより、全国の保健医療福祉関係機関に就業している。卒業生に対しては、博士後期課程への進学を視野に入れた博士前期課程への進学、修了生には博士後期課程への進学について、本学教員とのつながりや地域共創看護教育センター事業、ホームカミングデイ等を通じてガイダンスを行い、直接的に働きかけていく。在学学生には、パンフレットやリーフレット、学内広報誌や父母会誌を通じて、本学博士後期課程に係る広報活動を展開するとともに、各学年で実施されるキャリアガイダンスにおいて、本学博士前期課程及び博士後期課程についてのオリエンテーションを実施し、学生確保に向けて働きかけていく。



## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### 2-1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

わが国は、世界に類を見ないスピードで社会の高齢化が進展し、老年世帯や独居高齢者、慢性疾患や身体障害を有しながら地域社会において生活する人々も増加している。また、産業構造の変化や経済活動のグローバル化、情報化社会への移行、さらには、コミュニティーの脆弱化や核家族化の進展、生活スタイルの変化等により、いわゆる「ストレス社会」が到来し、その影響により、生活習慣病や精神疾患を有する人々も増加している。近年では、大規模自然災害や新型コロナウイルス感染症による被害が拡大・深刻化・長期化し、人々の健康や生活に大きな影響を及ぼしている。これらを背景に、国民の健康や生活に対する認識は変化し、健康の保持・増進並びに健康課題の解決に向けた保健医療福祉の取り組みに対するニーズは多様化している。

そのような状況にあって、人々の健康や生活に最も身近で関わる専門職である看護職者に期待される役割は拡大しつつある。その期待に看護職者が適切に応えるには、専門的な知識・技術、看護実践能力、研究的思考能力、マネジメント能力を有することはもとより、地域社会及び地域の人々の健康課題並びに保健医療福祉における看護学上の課題を探究し、看護学の専門的な知識に基づいて看護ケアやケアシステムを開発、また、看護職者が専門職者として自らのキャリア形成をマネジメントすることを促進する教育支援プログラムを開発する高度な看護学研究を遂行できる能力を兼ね備える必要がある。

そこで、本学の今日までの確かな実績を基盤とし、より専門性を高める形で博士後期課程を設置することで、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献する看護学研究を自律して遂行できる高度な能力を有する人材を養成する。

### 2-2. 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの根拠

#### 1) 社会的な人材需要の動向

昨今の急激な社会の変化は、人々の健康や生活に大きな影響を及ぼしている。また、高度急性期医療の発展や医療機関の機能分化により、在院日数は短縮化し、早期に在宅への移行が可能となったことで、疾病や障害を有しながら地域社会で生活する人々も増加している。これらと歩調を合わせる形で、住み慣れた地域社会において、最後まで安心して自分らしく生きることへのニーズも高まっている。

これらのニーズを背景に、医療機関で疾病を治すことに主眼を置く「治す医療」から、地域社会において疾病の予防に主眼を置く「予防医療」や、地域社会において疾病や障害を有しながらも自分らしく生活することを支援することに主眼を置く「支える医療」へと変化している。看護職者は、今日まで、最も身近な保健医療福祉の専門職として地域の人々に寄り添い、健康や生活に係る専門的知識・技術を活用しながら、健康課題の解決を支援してきた。近年では、「予防医療」や「支える医療」への変化に対応して、「医療機関における看護」か

ら「地域社会における看護」へと役割と機能を拡大させている。今後は、より一層、「地域社会における看護」の充実を図ることで、地域社会や地域の人々の健康や生活の実態に即した形で健康課題の解決並びに保健医療福祉の質を向上させていくことが求められると考えられる。したがって、地域社会及び地域の人々の健康課題や保健医療福祉における看護学上の課題を探究し、看護学の専門的な知識に基づいて看護ケアやケアシステムを開発、また、看護職者が専門職者として自らのキャリア形成をマネジメントすることを促進する教育支援プログラムを開発する高度な看護学研究を遂行できる能力を有する人材の養成は必須であり、また、急務と考える。

一方、看護職者を養成する看護系大学は、令和2(2020)年度には293校まで増加している。看護系大学の増加に伴い、看護学に係る高度な教育・研究能力を有する教員の必要数も急増しているが、博士後期課程を設置する看護系大学は全体の4割程度に留まっている。そのため、看護学に係る専門教育を受け、高度な教育・研究能力を有する教員を看護学の各専門領域に配置することが困難な状況が全国的に生じており、また、教員の教育・研究能力の質の担保が社会的な課題となっている。このことから、日本看護系大学協議会は、「看護系大学の教育体制を充実させ、教育力を持った人材養成を推進することは喫緊の課題」とし、公益社団法人日本看護協会は、会長名で文部科学省高等教育局長宛に「看護職の人材養成に関する要望書」(平成30(2018)年4月25日)を提出し、社会の変化から国民の健康や生活に対する意識が変化中、医療提供体制の改革や地域包括ケアシステムの構築等の保健医療福祉を取り巻く状況も変化していることを背景に、看護学の更なる発展のため、教育・研究者や高度専門職業人の養成に向け、大学院修士課程及び博士課程の積極的な設置が必要として、看護系大学院、とりわけ、高度な教育・研究を行う博士後期課程の設置の要望を表明している(資料12)。したがって、看護学に係る専門教育を受け、高度な教育・研究能力を有する教員の確保並びに教員の教育・研究能力の質を担保するために博士後期課程を設置し、環境を整えることは、看護系大学に課せられた社会的責務と考える。

以上のような背景から、本学博士後期課程の人材養成に関する目的並びに教育研究上の目的は、社会的な人材需要の動向に合致するものと考えられる。

## 2) 地域的な人材需要の動向

本県は、全国平均を上回る速さで社会の高齢化・少子化が進展している。また、県北部や東部の市町村では、過疎化も課題となっている。これらを背景に、平成30(2018)年3月に栃木県保健医療計画(7期計画)を策定し、「質の高い医療を効率的に提供する体制を確保するとともに、保健・介護・福祉サービスと一体的に提供することによる、誰もが住み慣れた地域において健康で、安心して暮らすことができる環境づくり」を基本理念とした保健医療福祉に関連する施策を推進している(資料13)。

一方、本県の保健医療福祉の提供体制は、県南保健医療圏以外、資源の不足地域となっている。看護職者に関して、本県の看護師数は、人口10万対比に915.7人で47都道府県中40位、保健師数は、人口10万対比に50.1人で47都道府県中30位(厚生労働省「令和2年

衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」]である。看護職者数は年々増加しているものの、人口10万人当たりの就業者数は全国の中でも依然として少ない。したがって、県が推進する保健医療福祉関連施策の実現には、保健医療福祉関係の専門職者のみでは限界がある。そこで、地域の人々の参画を促し、連携して、共に取り組むことが重要となる。地域の人々と共に取り組むことにおいて、看護職者には、健康や生活に係る専門職として、地域社会及び地域の人々の健康課題や保健医療福祉における看護学上の課題を探究し、看護学の専門的な知識に基づいて看護ケアやケアシステムを開発、また、看護職者が専門職者として自らのキャリア形成をマネジメントすることを促進する教育支援プログラムを開発する高度な看護学研究を遂行することが求められると考える。したがって、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献する高度な看護学研究を自律して遂行できる能力を有する人材の養成は、急務といえる。

他方、本県並びに北関東圏においても、看護学に係る専門教育を受け、高度な教育・研究能力を有する教員の確保並びに教員の教育・研究能力の質の担保が大きな課題となっている（資料14）。このことから、看護学教育機関として本学に対する期待は大きく、本県内の看護職者の職能団体である公益社団法人栃木県看護協会並びに栃木県看護部長会から、会長名で博士後期課程設置に係る要望書が寄せられている（資料15）（資料16）。

以上から、本学博士後期課程の人材養成に関する目的、教育研究上の目的は、地域的な人材需要の動向と合致するものと考ええる。

## 2-3.本学博士後期課程修了生に対する社会のニーズと採用ニーズ：アンケート調査結果

本学博士後期課程修了生の就職・採用が見込まれる1都7県（栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、兵庫県）に所在する医療・教育機関を対象に実施した採用意向調査の結果から（前掲資料6）、本学博士後期課程に対する興味・関心を示した51施設を対象に、本学博士後期課程の社会的必要性について尋ねたところ、「ある程度必要だと思う」が28件（54.9%）と最も多く、次いで「とても必要だと思う」22件（43.1%）であり、社会的必要性について肯定的な回答は50件（98.0%）であった（表7）。

表7：本学博士後期課程の社会的必要性について（N=51、「採用意向調査」）

カテゴリ	件数	(全体) %
とても必要だと思う	22	43.1
ある程度必要だと思う	28	54.9
あまり必要だとは思わない	1	2.0
まったく必要だとは思わない	0	0.0
無回答	0	0.0

本学博士後期課程の社会的必要性について肯定的な回答を示した 50 施設を対象に、修了生の採用意向について尋ねたところ、「採用したい」が 29 件 (58.0%) と最も多く、次いで「採用を検討したい」20 件(40.0%)であり、修了生の採用に肯定的な回答は 49 件(98.0%)であった。なお、「採用は考えない」1 件 (2.0%) であった (表 8)。

表 8：本学博士後期課程修了生の採用意向について (N=50, 「採用意向調査」)

カテゴリ	件数	(全体) %
採用したい	29	58.0
採用を検討したい	20	40.0
採用は考えない	1	2.0
無回答	0	0.0

本学博士後期課程修了生の採用に肯定的な回答を示した 49 施設を対象に、将来的な採用人数について尋ねたところ、「人数未確定」が 28 件 (57.1%) と最も多く、次いで「1 人」15 件 (30.6%)、「2 人」3 件 (6.1%)、「3 人以上」1 件 (2.0%) であった (無回答 2 件 (4.1%)) (表 9)。

表 9：本学博士後期課程修了生の採用人数について (N=49, 「採用意向調査」)

カテゴリ	件数	(全体) %
1 人	15	30.6
2 人	3	6.1
3 人以上	1	2.0
人数未確定	28	57.1
無回答	2	4.1

本学博士後期課程修了生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、本学博士後期課程修了生の採用意向に対する肯定的な回答数と、採用人数の将来的な採用人数の各選択肢 (「1 人」、「2 人」、「3 人以上」、「人数未確定」) を乗じ、これを合計して算出した (「3 人以上」は最低数である「3 人」、「人数未確定」は、「1 人」とした) (表 10)。

表 10：本学博士後期課程修了生の採用意向及び採用人数について

回答数 (件) 人数 (人)	「採用したい」 のみ		合計	回答数 (件) 人数 (人)	「採用したい」 「採用を検討したい」 の合計		合計
1人 (A)	6	(a)	(A) × (a) 6	1人 (A)	15	(a)	(A) × (a) 15
2人 (B)	1	(b)	(B) × (b) 2	2人 (B)	3	(b)	(B) × (b) 6
3人以上 (C)	1	(c)	(C) × (c) 3	3人以上 (C)	1	(c)	(C) × (c) 3
人数は未確定 (D)	19	(d)	(D) × (d) 19	人数は未確定 (D)	28	(d)	(D) × (d) 28
無回答	2			無回答	2		

本学博士後期課程の学生は、看護系大学等の高等教育機関や保健医療福祉関連の研究機関等に勤務する教育・研究者や、病院等の保健医療福祉関連機関に勤務する看護職者等の社会人を想定していることから、修了後の進路としては入学前の勤務先であることが想定される。しかし、博士の学位取得を契機として、新たな進路に進む学生がいる可能性もある。

上記した採用意向調査の結果から、本学博士後期課程修了生に対する採用意向人数は、「採用したい」のみで合計した場合、30人分となる。入学定員は3人であるため、10.0倍の採用意向人数を確保できている。また、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した採用意向人数を合計すると52人分となり、入学定員3人に対して、約17.3倍となる。加えて、調査対象以外の医療機関、教育機関での採用も想定されることから、本学博士後期課程修了生の進路は十分に確保できることが見込まれ、社会のニーズと採用ニーズはありと考える。

## 学生確保の見通しを記載した書類の資料一覧

資料 No.	資料名	掲載頁
資料 1	本県並びに北関東圏に所在する看護系博士後期課程の入学状況 (過去4年間)	2
資料 2	本県並びに北関東圏に所在する看護学研究科博士後期課程における教員一人 当たりの学生数	3
資料 3	本県並びに北関東圏に所在する看護系大学における博士後期課程の設置状況	4
資料 4	獨協医科大学大学院看護学研究科修士課程における入学者数・修了者数	5
資料 5	獨協医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)(仮称)への 入学意向に関するアンケート調査報告	6
資料 6	獨協医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)(仮称)の修 了生に対する医療・教育機関等の採用意向に関するアンケート調査報告	41
資料 7	本県並びに北関東圏に所在する看護系博士後期課程における学納金(概算)	69
資料 8	獨協医科大学大学院看護学研究科長期履修制度の取扱い要領	70
資料 9	獨協医科大学大学院看護学研究科オープンキャンパス実施状況	72
資料 10	地域共創看護教育センター組織図	73
資料 11	令和3年度地域共創看護教育センター事業一覧	74
資料 12	公益社団法人日本看護協会「看護職の人材育成に関する要望書」	75
資料 13	栃木県保健医療計画(第7期計画)の基本理念	80
資料 14	本県並びに北関東圏に所在する看護系大学における教員求人状況 (過去4カ月)	81
資料 15	公益社団法人栃木県看護協会会長からの「要望書」	82
資料 16	栃木県看護部長会会長からの「要望書」	83

本県並びに北関東圏に所在する看護系博士後期課程の入学状況（過去4年間）

大学院名	研究科・専攻名	入学定員	入学者数			
			H30	H31	R2	R3
自治医科大学大学院	看護学研究科 博士後期課程	2	2	1	2	2
群馬県立県民健康科学 大学大学院	看護学研究科 博士後期課程	2	2	2	4	2
筑波大学大学院	人間総合科学研究科 博士後期課程看護科学専攻	8	9	8	7	8
茨城県立大学大学院	保健医療科学研究科 博士後期課程保健医療科学専攻	5	7	8	7	10
群馬大学大学院	保健学研究科博士後期課程 保健学専攻	10	10	12	9	8
埼玉県立大学大学院	保健医療福祉学研究科博士後期 課程保健医療福祉学専攻	6	8	8	4	8
国際医療福祉大学 大学院	保健福祉学研究科博士後期課程 保健医療学専攻	80	不明	90	79	69

※各大学院の情報については、大学ポータルサイト及び当該大学院ホームページより転載

本県並びに北関東圏に所在する看護学研究科博士後期課程における  
教員一人当たりの学生数

大学院名	研究科名 専攻名	入学 定員	収容 定員	教員数	教員一人 当たりの 学生数
獨協医科大学大学院	看護学研究科博士後期課程 看護学専攻（仮称）	3(予定)	9(予定)	18	0.5
自治医科大学大学院	看護学研究科博士後期課程 看護学専攻	2	6	14	0.43
群馬県立県民健康 科学大学大学院	看護学研究科博士後期課程 看護学専攻	2	6	14	0.43
筑波大学大学院	人間総合科学研究科博士後期 課程看護科学専攻	8	24	20	1.20

※各大学院の教員数等の情報は、当該大学院ホームページより転載しています。

※入学(収容)定員が保健医療福祉系の専攻課程を含む大学院は除外しています。



## 本県並びに北関東圏に所在する看護系大学における博士後期課程の設置状況

区分	所在地	大学名	看護系 学部	看護系研究科（入学定員）	
				修士課程 （博士前期）	博士後期
国立	茨城	筑波大学	○	○（15）	○（8）
	群馬	群馬大学	○	○（※50）	○（※10）
公立	茨城	茨城県立医療大学	○	○（※6）	○（※5）
	群馬	群馬県立県民健康科学大学	○	○（8）	○（2）
	埼玉	埼玉県立大学	○	○（※20）	○（※6）
私立	茨城	茨城キリスト教大学	○	○（6）	
		つくば国際大学	○		
		常磐大学	○	○（6）	
	栃木	足利大学（注）	○		
		国際医療福祉大学	○	○（※200）	○（※80）
		自治医科大学	○	○（8）	○（2）
		獨協医科大学	○	○（10）	
	群馬	桐生大学	○		
		群馬医療福祉大学（注）	○		
		群馬パース大学	○	○	
		上武大学（注）	○		
		高崎健康福祉大学	○	○（6）	
	埼玉	埼玉医科大学	○	○（14）	
		西武文理大学	○		
		大東文化大学（注）	○		
		東京家政大学（注）	○		
		東都大学	○		
		日本医療科学大学	○		
		日本保健医療大学	○		
		人間総合科学大学（注）	○		
日本赤十字看護大学		○	○（32）	○（8）	
目白大学		○	○（15）		
			27	15	8

大学名は「文部科学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（令和2年5月1日現在）」より抽出  
看護系研究科の有無は各大学ホームページより

（注）大学院は有するが看護系研究科は有しない大学

※他の保健医療福祉系専攻と合わせた入学定員

## 資料4

獨協医科大学大学院看護学研究科修士課程における入学者数・修了者数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
入学者数	12	12	6	8	11	6	11	5	5	7
修了者数	－	10	10	6	8	6	9	8	3	－

獨協医科大学大学院  
看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への  
入学意向に関するアンケート調査報告

令和4年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への  
入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和5年4月に予定している獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の開設に向けて、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象者

調査対象の種別	対象人数	調査方法
①医療機関(59施設)に勤務する看護職員	145	看護管理者、又は学校長に郵送又は手渡し
②教育機関 23校 看護教員等	74	
③獨協医科大学大学院修士課程修了生、 獨協医科大学看護学部教員等	73	修了生 51名は個人宛に送付 教員 22名は手渡し
総計	292	

(3) 調査方法

- ① 調査対象医療機関 59 施設の看護管理者へ依頼し、博士後期課程に進学する可能性のある看護職員（修士の学位保有者や専門看護師等）に対し、アンケート用紙及び獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要を配布して、アンケート調査を実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ回答者から直接郵送。
- ② 調査対象の教育機関 23 校の学校長へ依頼し、勤務する看護教員（修士の学位保有者や専門看護師等）に対し、アンケート用紙及び獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要を配布して、アンケート調査を実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ回答者から直接郵送。
- ③ 獨協医科大学大学院 修士課程修了生、獨協医科大学看護学部教員等へ依頼し、アンケート用紙及び獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要を送付（教員は手渡し）して、アンケート調査を実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ回答者から直接郵送。

その結果、89人から有効回答を得た。

集計結果より、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和3年11月～令和3年12月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：292人

有効回答者数：89人

有効回収率：約30.5%（有効回答89件 ÷ 調査対象292件）

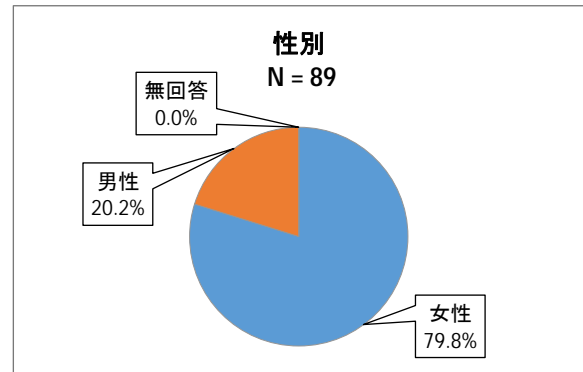
※設置を構想している獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

## 2. 調査結果

### (1) 性別について

性別について調査した結果、回答者 89 人のうち、「女性」が 71 人 (79.8%)、「男性」が 18 人 (20.2%) の順になっている。

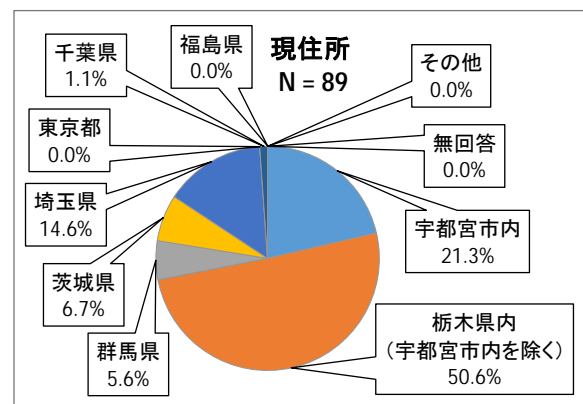
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	女性	71	79.8
2	男性	18	20.2
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -ス)	89	100



### (2) 現住所について

現住所について調査した結果、回答者 89 人のうち、「栃木県内 (宇都宮市内を除く)」が 45 人 (50.6%) と最も多く、次いで「宇都宮市内」19 人 (21.3%)、「埼玉県」13 人 (14.6%)、「茨城県」6 人 (6.7%)、「群馬県」5 人 (5.6%)、「千葉県」1 人 (1.1%) の順になっている。

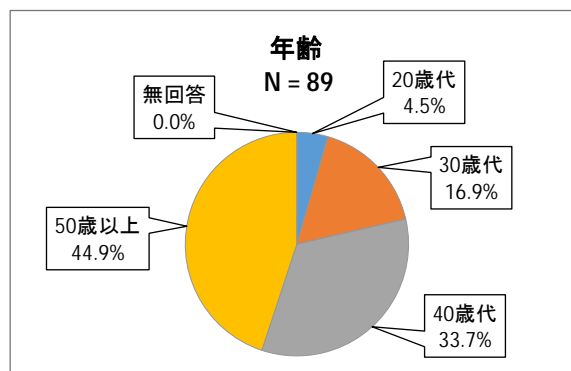
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	宇都宮市内	19	21.3
2	栃木県内 (宇都宮市内を除く)	45	50.6
3	群馬県	5	5.6
4	茨城県	6	6.7
5	埼玉県	13	14.6
6	東京都	0	0.0
7	千葉県	1	1.1
8	福島県	0	0.0
9	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -ス)	89	100



### (3) 年齢について

年齢について調査した結果、回答者 89 人のうち、「50 歳以上」が 40 人 (44.9%) と最も多く、次いで「40 歳代」30 人 (33.7%)、「30 歳代」15 人 (16.9%)、「20 歳代」4 人 (4.5%) の順になっている。

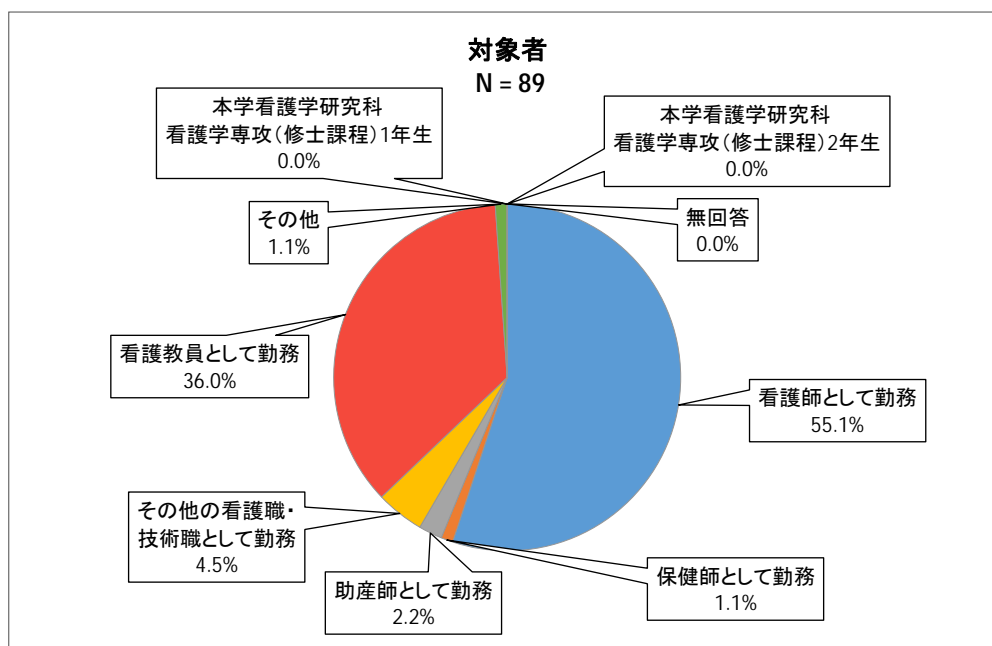
年齢			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	20歳代	4	4.5
2	30歳代	15	16.9
3	40歳代	30	33.7
4	50歳以上	40	44.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	89	100



(4) 対象者について

対象者について調査した結果、回答者 89 人のうち、「看護師として勤務」が 49 人 (55.1%) と最も多く、次いで「看護教員として勤務」32 人 (36.0%)、「その他の看護職・技術職として勤務」4 人 (4.5%)、「助産師として勤務」2 人 (2.2%)、「保健師として勤務」1 人 (1.1%)、「その他」1 人 (1.1%) の順になっている。

対象者			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師として勤務	49	55.1
2	保健師として勤務	1	1.1
3	助産師として勤務	2	2.2
4	その他の看護職・技術職として勤務	4	4.5
5	看護教員として勤務	32	36.0
6	その他	1	1.1
7	本学看護学研究科 看護学専攻(修士課程)1年生	0	0.0
8	本学看護学研究科 看護学専攻(修士課程)2年生	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	89	100

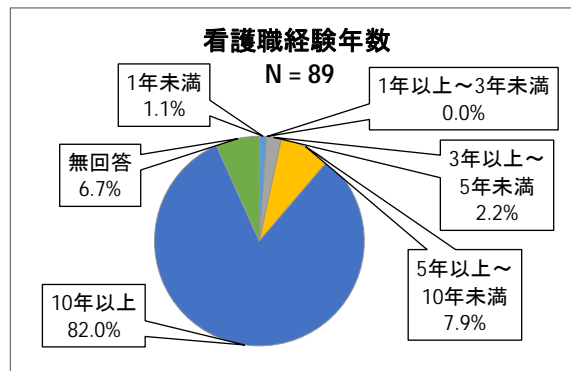




(5) 看護職経験年数について

通算の看護職（看護教員を含む）経験年数を調査した結果、「10年以上」が73人（82.0%）と最も多く、次いで「5年以上～10年未満」7人（7.9%）、「3年以上～5年未満」2人（2.2%）、「1年未満」1人（1.1%）の順になっている。 ※「無回答」6人（6.7%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1年未満	1	1.1
2	1年以上～3年未満	0	0.0
3	3年以上～5年未満	2	2.2
4	5年以上～10年未満	7	7.9
5	10年以上	73	82.0
	無回答	6	6.7
	N (%ベース)	89	100

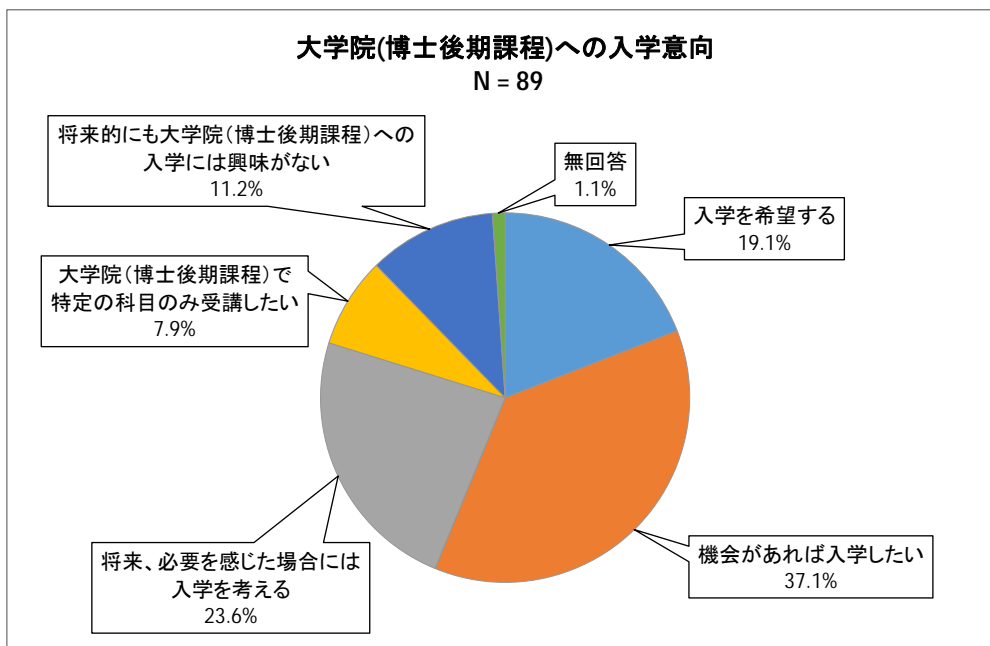


(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について

大学院（博士後期課程）への入学意向について調査した結果、回答者89人のうち、「機会があれば入学したい」が33人（37.1%）と最も多く、次いで「将来、必要を感じた場合には入学を考える」21人（23.6%）、「入学を希望する」17人（19.1%）、「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」10人（11.2%）、「大学院（博士後期課程）で特定の科目のみ受講したい」7人（7.9%）の順になっている。 ※「無回答」1人（1.1%）

大学院(博士後期課程)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	17	19.1
2	機会があれば入学したい	33	37.1
3	将来、必要を感じた場合には入学を考える	21	23.6
4	大学院（博士後期課程）で特定の科目のみ受講したい	7	7.9
5	将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない	10	11.2
	無回答	1	1.1
	N（%ベース）	89	100



(7) 大学院（博士後期課程）への入学理由について

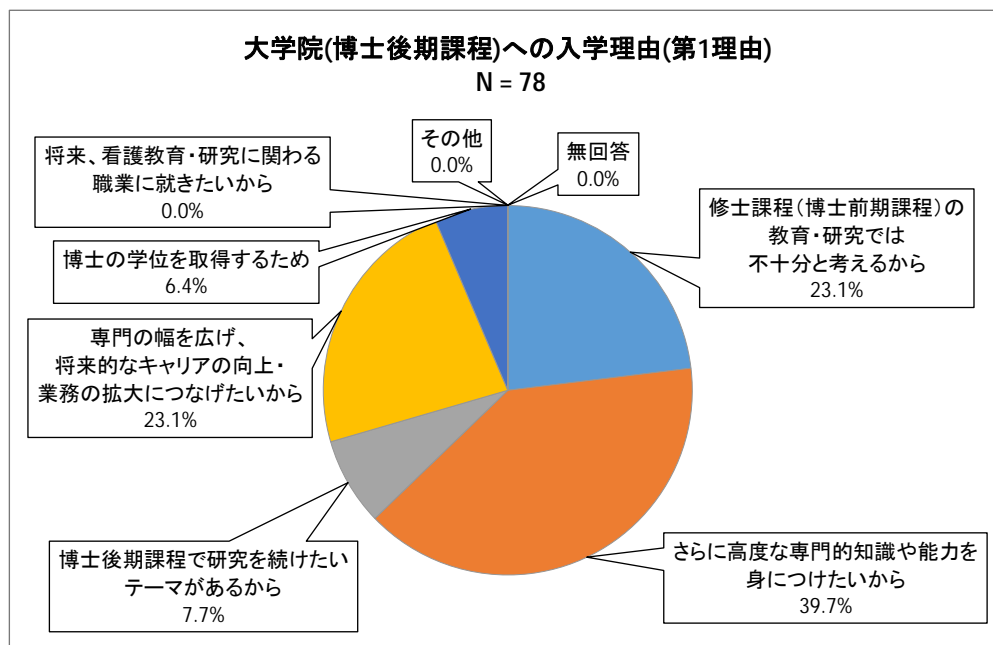
7-1 大学院（博士後期課程）への入学理由（第1理由）

「(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について」にて「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」と回答した10人と「無回答」1人を除く78人に、大学院（博士後期課程）への入学理由（第1理由）について調査した。

その結果、「さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから」が31人（39.7%）と最も多く、次いで「修士課程（博士前期課程）の教育・研究では不十分と考えるから」18人（23.1%）、「専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから」18人（23.1%）、「博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから」6人（7.7%）、「博士の学位を取得するため」5人（6.4%）の順になっている。

大学院(博士後期課程)への入学理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	修士課程（博士前期課程）の教育・研究では不十分と考えるから	18	23.1
2	さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから	31	39.7
3	博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから	6	7.7
4	専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから	18	23.1
5	博士の学位を取得するため	5	6.4
6	将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから	0	0.0
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	78	100



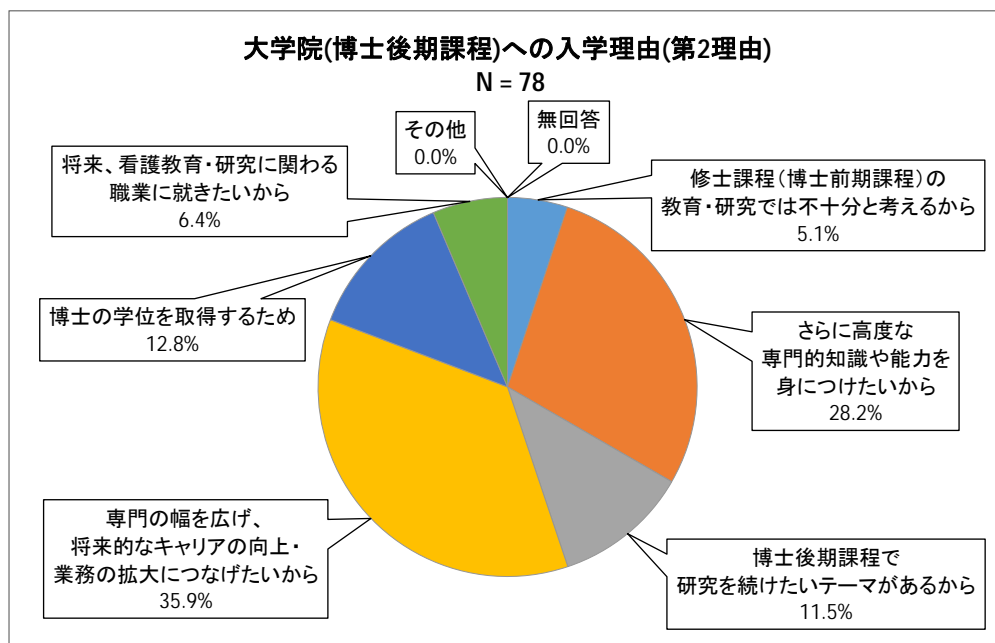
## 7-2 大学院（博士後期課程）への入学理由（第2理由）

「(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について」にて「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」と回答した10人と「無回答」1人を除く78人に、大学院（博士後期課程）への入学理由（第2理由）について調査した。

その結果、「専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから」が28人（35.9%）と最も多く、次いで「さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから」22人（28.2%）、「博士の学位を取得するため」10人（12.8%）、「博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから」9人（11.5%）、「将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから」5人（6.4%）、「修士課程（博士前期課程）の教育・研究では不十分と考えるから」4人（5.1%）の順になっている。

大学院(博士後期課程)への入学理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	修士課程（博士前期課程）の教育・研究では不十分と考えるから	4	5.1
2	さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから	22	28.2
3	博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから	9	11.5
4	専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから	28	35.9
5	博士の学位を取得するため	10	12.8
6	将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから	5	6.4
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N（% <sup>ペー</sup> -s）	78	100



(8) 大学院（博士後期課程）への入学で重視すること

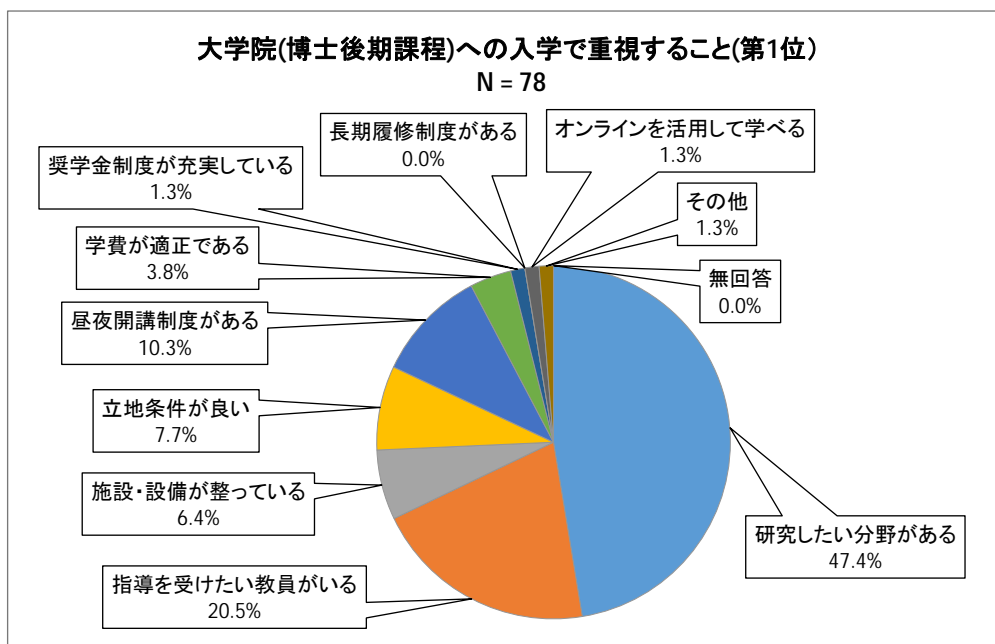
8-1 大学院（博士後期課程）への入学で重視すること（第1位）

「(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について」にて「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」と回答した 10 人と「無回答」1 人を除く 78 人に、大学院（博士後期課程）への入学に際して特に重視すること（第1位）について調査した。

その結果、「研究したい分野がある」が 37 人（47.4%）と最も多く、次いで「指導を受けたい教員がいる」16 人（20.5%）、「昼夜開講制度がある」8 人（10.3%）、「立地条件が良い」6 人（7.7%）、「施設・設備が整っている」5 人（6.4%）、「学費が適正である」3 人（3.8%）、「奨学金制度が充実している」1 人（1.3%）、「オンラインを活用して学べる」1 人（1.3%）、「その他」1 人（1.3%）となっている。

大学院(博士後期課程)への入学で重視すること(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	研究したい分野がある	37	47.4
2	指導を受けたい教員がいる	16	20.5
3	施設・設備が整っている	5	6.4
4	立地条件が良い	6	7.7
5	昼夜開講制度がある	8	10.3
6	学費が適正である	3	3.8
7	奨学金制度が充実している	1	1.3
8	長期履修制度がある	0	0.0
9	オンラインを活用して学べる	1	1.3
10	その他	1	1.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	78	100



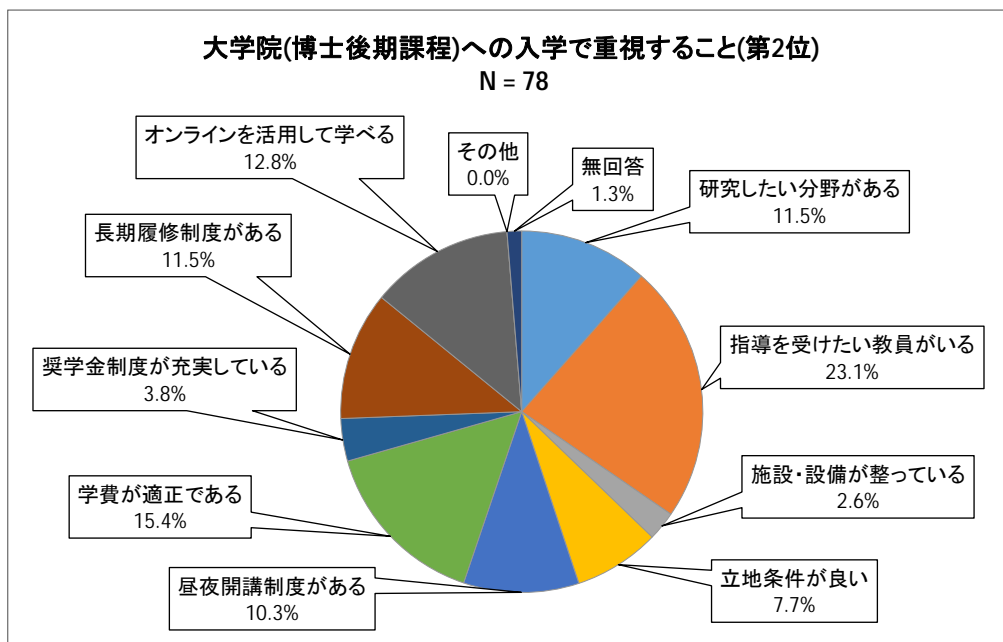
## 8-2 大学院（博士後期課程）への入学で重視すること（第2位）

「(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について」にて「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」と回答した10人と「無回答」1人を除く78人に、大学院（博士後期課程）への入学に際して特に重視すること（第2位）について調査した。

その結果、「指導を受けたい教員がいる」が18人（23.1%）と最も多く、次いで「学費が適正である」12人（15.4%）、「オンラインを活用して学べる」10人（12.8%）、「研究したい分野がある」9人（11.5%）、「長期履修制度がある」9人（11.5%）、「昼夜開講制度がある」8人（10.3%）、「立地条件が良い」6人（7.7%）、「奨学金制度が充実している」3人（3.8%）、「施設・設備が整っている」2人（2.6%）となっている。 ※「無回答」1人（1.3%）

大学院(博士後期課程)への入学で重視すること(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	研究したい分野がある	9	11.5
2	指導を受けたい教員がいる	18	23.1
3	施設・設備が整っている	2	2.6
4	立地条件が良い	6	7.7
5	昼夜開講制度がある	8	10.3
6	学費が適正である	12	15.4
7	奨学金制度が充実している	3	3.8
8	長期履修制度がある	9	11.5
9	オンラインを活用して学べる	10	12.8
10	その他	0	0.0
	無回答	1	1.3
	N (%ベース)	78	100



(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について

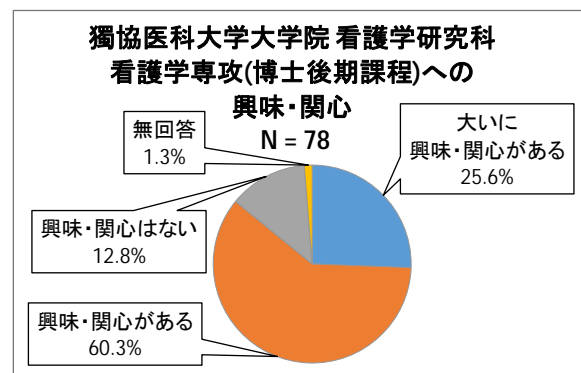
「(6) 大学院（博士後期課程）への入学意向について」にて「将来的にも大学院（博士後期課程）への入学には興味がない」と回答した 10 人と「無回答」1 人を除く 78 人に、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について調査した。

その結果、「興味・関心がある」が 47 人（60.3%）と最も多く、「大いに興味・関心がある」20 人（25.6%）、「興味・関心はない」10 人（12.8%）となっている。 ※「無回答」1 人（1.3%）

なお、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」の合計 67 人（85.9%）が獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）に興味・関心を示している。

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	20	25.6
2	興味・関心がある	47	60.3
3	興味・関心はない	10	12.8
	無回答	1	1.3
	N (%ベース)	78	100



(10) 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心の理由について

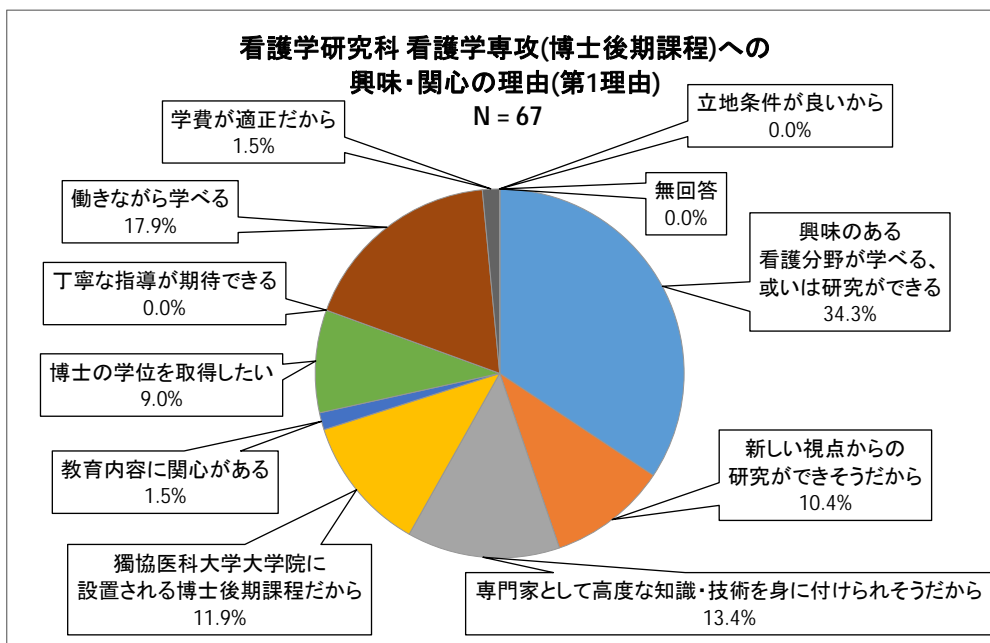
10-1 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心の理由 (第1理由)

「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 67 人に、興味・関心の理由 (第1理由) について調査した。

その結果、「興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる」が 23 人 (34.3%) と最も多く、次いで「働きながら学べる」12 人 (17.9%)、「専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから」9 人 (13.4%)、「獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから」8 人 (11.9%)、「新しい視点からの研究ができそうだから」7 人 (10.4%)、「博士の学位を取得したい」6 人 (9.0%)、「教育内容に関心がある」1 人 (1.5%)、「学費が適正だから」1 人 (1.5%) の順になっている。

看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心の理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる	23	34.3
2	新しい視点からの研究ができそうだから	7	10.4
3	専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから	9	13.4
4	獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから	8	11.9
5	教育内容に関心がある	1	1.5
6	博士の学位を取得したい	6	9.0
7	丁寧な指導が期待できる	0	0.0
8	働きながら学べる	12	17.9
9	学費が適正だから	1	1.5
10	立地条件が良いから	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>ペ</sup> -ス)	67	100





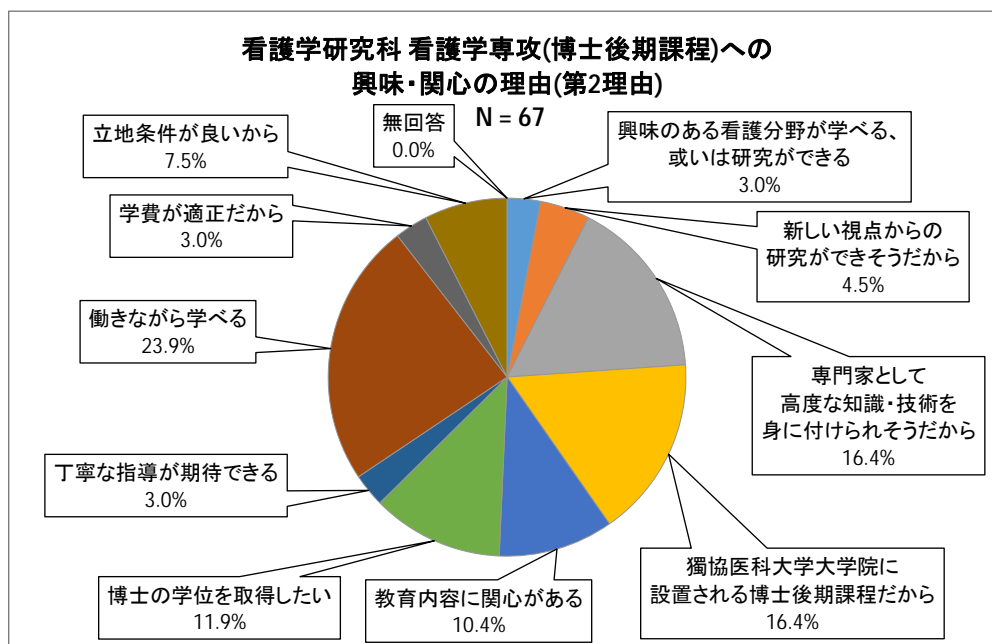
## 10-2 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心の理由（第2理由）

「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 67 人に、興味・関心の理由（第2理由）について調査した。

その結果、「働きながら学べる」が 16 人（23.9%）と最も多く、次いで「専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから」11 人（16.4%）、「獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから」11 人（16.4%）、「博士の学位を取得したい」8 人（11.9%）、「教育内容に関心がある」7 人（10.4%）、「立地条件が良いから」5 人（7.5%）、「新しい視点からの研究ができそうだから」3 人（4.5%）、「興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる」2 人（3.0%）、「丁寧な指導が期待できる」2 人（3.0%）、「学費が適正だから」2 人（3.0%）の順になっている。

看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心の理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる	2	3.0
2	新しい視点からの研究ができそうだから	3	4.5
3	専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから	11	16.4
4	獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから	11	16.4
5	教育内容に関心がある	7	10.4
6	博士の学位を取得したい	8	11.9
7	丁寧な指導が期待できる	2	3.0
8	働きながら学べる	16	23.9
9	学費が適正だから	2	3.0
10	立地条件が良いから	5	7.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	67	100



(11) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への入学意向について

「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」と回答した 67 人に、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への入学意向について調査した。

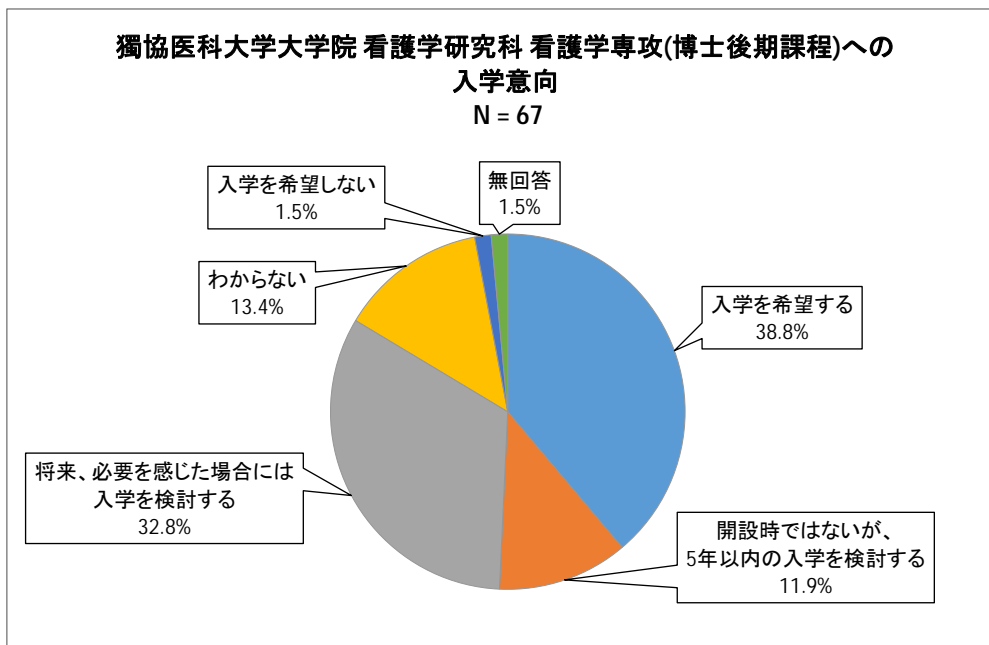
その結果、「入学を希望する」が 26 人（38.8%）と最も多く、次いで「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」22 人（32.8%）、「わからない」9 人（13.4%）、「開設時ではないが、5 年以内の入学を検討する」8 人（11.9%）、「入学を希望しない」1 人（1.5%）の順になっている。

※「無回答」1 人（1.5%）

なお、「入学を希望する」、「開設時ではないが、5 年以内の入学を検討する」、「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」の肯定的な回答を合計すると、56 人（83.6%）となっている。

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	26	38.8
2	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	8	11.9
3	将来、必要を感じた場合には入学を検討する	22	32.8
4	わからない	9	13.4
5	入学を希望しない	1	1.5
	無回答	1	1.5
	N (%ベース)	67	100



### 3. 調査結果のまとめ

「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について」と、「(11) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への入学意向について」の調査結果をクロス集計した結果は下表のとおりである。

興味・関心 × 入学意向

上段:度数 下段:%		興味・関心		
		合計	大いに興味・関心がある	興味・関心がある
入学意向	全体	67 100.0	20 29.9	47 70.1
	入学を希望する	26 100.0	18 69.2	8 30.8
	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	8 100.0	2 25.0	6 75.0
	将来、必要を感じた場合には入学を検討する	22 100.0	0 -	22 100.0
	わからない	9 100.0	0 -	9 100.0
	入学を希望しない	1 100.0	0 -	1 100.0
	無回答	1 100.0	0 -	1 100.0

「入学を希望する」と回答した者は、「大いに興味・関心がある」で 18 人、「興味・関心がある」で 8 人、合計で 26 人となり、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の入学定員 3 人に対し、約 8.7 倍の入学意向を示している。

また「入学を希望する」、「開設時ではないが、5年以内の入学を検討する」、「将来、必要を感じた場合には入学を検討する」と肯定的な回答をした者は、「大いに興味・関心がある」で 20 人、「興味・関心がある」で 36 人、合計で 56 人となり、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の入学定員 3 人に対し、約 18.7 倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象以外からの進学も考えられることから、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考えられる。

# 調査票



問7 問6で1～4を選択された方へおたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から第2理由までお選びください。回答後は問8へお進みください。

- |                                     |      |                      |
|-------------------------------------|------|----------------------|
| 1 修士課程（博士前期課程）の教育・研究では不十分と考えるから     | 第1理由 | <input type="text"/> |
| 2 さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから           |      |                      |
| 3 博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから            | 第2理由 | <input type="text"/> |
| 4 専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから |      |                      |
| 5 博士の学位を取得するため                      |      |                      |
| 6 将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから           |      |                      |
| 7 その他 [具体的に:                        | ]    |                      |

問8 大学院（博士後期課程）への入学に際して特に重視することを、次の中から第2位までお選びください。

- |                |                 |     |                      |
|----------------|-----------------|-----|----------------------|
| 1 研究したい分野がある   | 6 学費が適正である      | 第1位 | <input type="text"/> |
| 2 指導を受けたい教員がいる | 7 奨学金制度が充実している  |     |                      |
| 3 施設・設備が整っている  | 8 長期履修制度がある     | 第2位 | <input type="text"/> |
| 4 立地条件が良い      | 9 オンラインを活用して学べる |     |                      |
| 5 昼夜開講制度がある    | 10 その他          |     |                      |
| [具体的に: ]       |                 |     |                      |

ここからは、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要資料（リーフレット）をご覧ください

**[獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への入学について]**

問9 本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）についてどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

- |               |  |                      |
|---------------|--|----------------------|
| 1 大いに興味・関心がある | 1、2を選択された方は問10へお進みください。<br>3を選択された方は問12へお進みください。 | <input type="text"/> |
| 2 興味・関心がある    |  |                      |
| 3 興味・関心はない    |  |                      |

問10 問9で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から第2理由までお選びください。

- |                              |      |                      |
|------------------------------|------|----------------------|
| 1 興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる    | 第1理由 | <input type="text"/> |
| 2 新しい視点からの研究ができそうだから         |      |                      |
| 3 専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから | 第2理由 | <input type="text"/> |
| 4 獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから   |      |                      |
| 5 教育内容に関心がある                 |      |                      |
| 6 博士の学位を取得したい                |      |                      |
| 7 丁寧な指導が期待できる                |      |                      |
| 8 働きながら学べる                   |      |                      |
| 9 学費が適正だから                   |      |                      |
| 10 立地条件が良いから                 |      |                      |

問11 今後、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）を受験し、合格された場合に入学を希望しますか。次の中から1つお選びください。

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 入学を希望する               | <input type="text"/> |
| 2 開設時ではないが、5年以内の入学を検討する |                      |
| 3 将来、必要を感じた場合には入学を検討する  |                      |
| 4 わからない                 |                      |
| 5 入学を希望しない              |                      |

問12 本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）について、ご意見・ご要望等がございましたらお聞かせください。

◆アンケートは以上となります。最後までご協力いただきありがとうございました◆

# 計画概要



獨協医科大学大学院  
看護学研究科看護学専攻  
【博士後期課程】(仮称)

入学定員：3名予定(収容定員9名)  
取得学位：博士(看護学)

令和5年  
4月  
設置予定

## 教育目的

獨協医科大学大学院は、医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授・研究して医学及び看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とします。

本看護学研究科博士後期課程はこの目的に則り、地域社会及び人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に寄与する研究を自立して遂行するとともに、地域社会及び人々の健康課題の解決に貢献する看護職者を育成できる能力を有する研究者を育成します。

## 博士後期課程概要

主な科目の概要

生体機能ケア	生体機能に影響を及ぼす自律神経活動や循環動態、生体機能の乱れとしての睡眠障害や冷え症についての理解を深め、看護ケアのエビデンスについて探究する。
生活環境調整支援システム	看護の対象が生活する療養環境や生活環境、人間と環境との相互作用や疾患との関係性についての理解を深め、環境調整支援システムのエビデンスについて探究する。
地域ケアシステム開発	地域診断に基づく人々の健康課題に対応し、生活の質を支える基盤となる地域づくりや保健医療福祉施策についての理解を深め、地域ケアシステムのエビデンスについて探究する。

このほか、看護実践ケア開発、看護キャリアマネジメントなども想定しています。対面授業とオンライン授業を併用するハイブリッド型授業を予定しています。

### 【お問い合わせ】

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880  
獨協医科大学大学院 博士後期課程設置準備室  
Tel 0282-87-2489  
Email kangogakubu@dokkyomed.ac.jp

内容は設置構想中のものであり、変更する場合があります。



## . 出願資格

修士の学位もしくは専門職学位を有する者  
外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者  
文部科学大臣の指定した者  
本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

## . 修了要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位（共通科目3単位、専門科目2単位以上、博士特別研究9単位の14単位以上）を修得するとともに、必要な研究指導を受け、学位論文の審査ならびに最終試験に合格することとする。

## . 社会人に対する配慮

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を用いて昼夜開講講義、必要に応じ集中講義、特例措置の授業時間及び長期履修制度を導入し在職のまま学ぶことができるように配慮します。

## . 設置場所

栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地

類似する近隣の大学院博士後期課程の納付金等

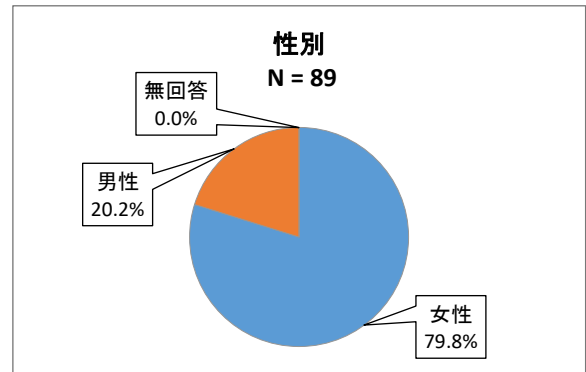
所在地	大学院名	研究科名 専攻名	入学定員 (名)	入学金 (円)	授業料 (円)	施設設備費等 (円)	初年度納付金 (円)	3年間の合計 (円)
栃木県	獨協医科大学 大学院	看護学研究科 看護学専攻（仮称）	3 (予定)	200,000	600,000	-	800,000	<b>2,000,000</b>
栃木県	自治医科大学 大学院	看護学研究科 看護学専攻	2	282,000	585,800	-	867,800	2,039,400
栃木県	国際医療福祉 大学大学院	医療福祉学研究科 保健医療学専攻	80	300,000	800,000	200,000	1,300,000	3,300,000
茨城県	茨城県立医療 大学大学院	保健医療科学研究科 保健医療科学専攻	5	282,000 564,000 茨城県内者	535,800	-	817,800 1,099,800 茨城県内者	1,889,400 2,171,400 茨城県内者
群馬県	群馬県立県民健康 科学大学大学院	看護学研究科 看護学専攻	2	141,000 282,000 群馬県内者	535,800	-	676,800 817,800 群馬県内者	1,748,400 1,889,400 群馬県内者
埼玉県	埼玉県立 大学大学院	保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻	6	211,500 423,000 埼玉県内者	621,000	-	832,500 1,044,000 埼玉県内者	2,074,500 2,286,000 埼玉県内者
茨城県	筑波大学 大学院	人間総合科学研究群博士 後期課程（医学系）看護科学	8	282,000	535,800	-	817,800	1,889,400
群馬県	群馬大学 大学院	保健学研究科 保健学専攻	10	282,000	535,800	-	817,800	1,889,400

各大学院の情報については、ホームページ等より転載しています。  
入学定員は看護学領域に限定されない保健医療福祉系の領域も含めた専攻全体を入学定員としている大学院もありますので、詳細は当該大学院のホームページをご確認ください。  
また、諸会費等を含んでいないもしくは特定の条件により入学金が免除される大学院もありますので、詳細は当該大学院のホームページをご確認ください。  
獨協医科大学大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の学納金は検討中で変更する可能性があります。

# 単純集計表

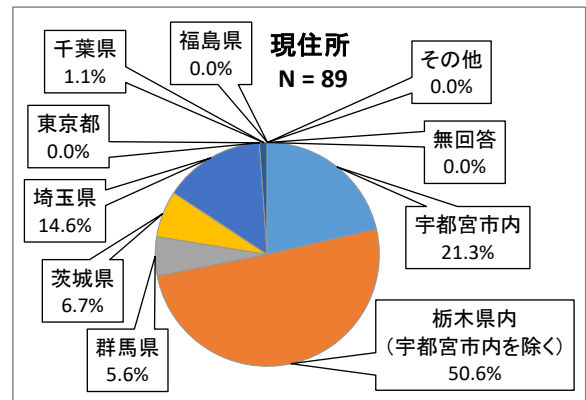
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	女性	71	79.8
2	男性	18	20.2
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> - <sup>ス</sup> )	89	100



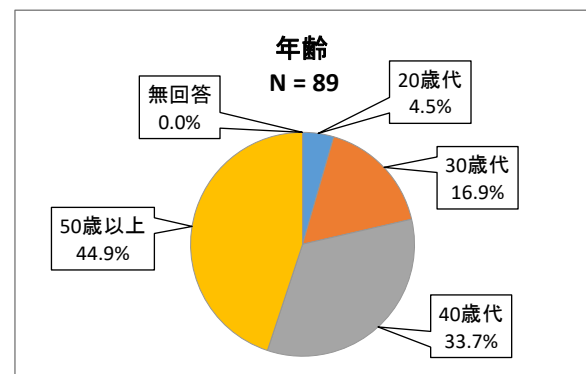
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	宇都宮市内	19	21.3
2	栃木県内 (宇都宮市内を除く)	45	50.6
3	群馬県	5	5.6
4	茨城県	6	6.7
5	埼玉県	13	14.6
6	東京都	0	0.0
7	千葉県	1	1.1
8	福島県	0	0.0
9	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> - <sup>ス</sup> )	89	100



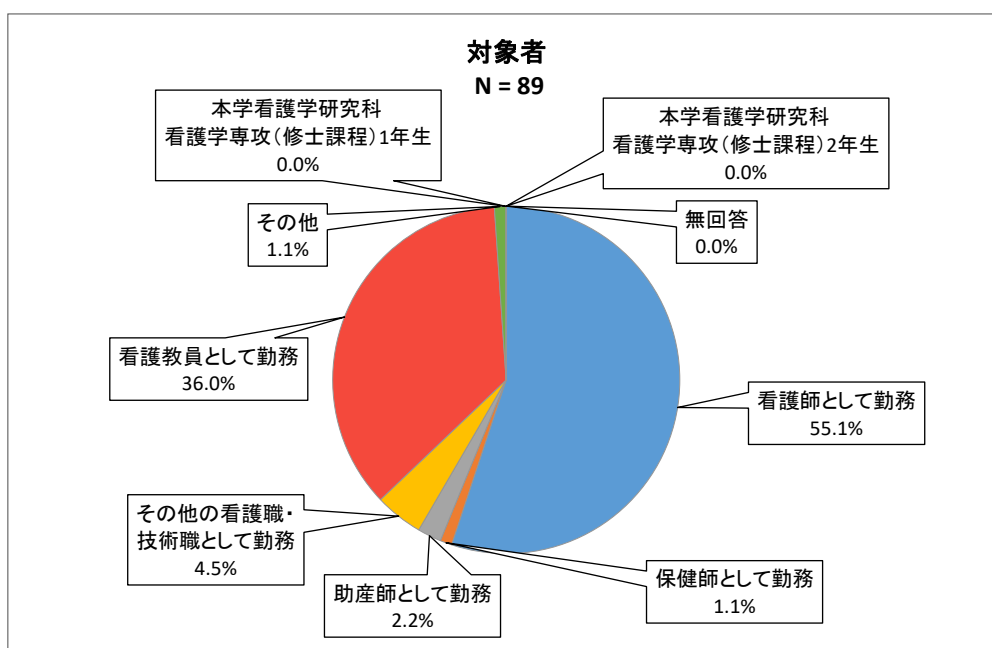
年齢

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	20歳代	4	4.5
2	30歳代	15	16.9
3	40歳代	30	33.7
4	50歳以上	40	44.9
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> - <sup>ス</sup> )	89	100



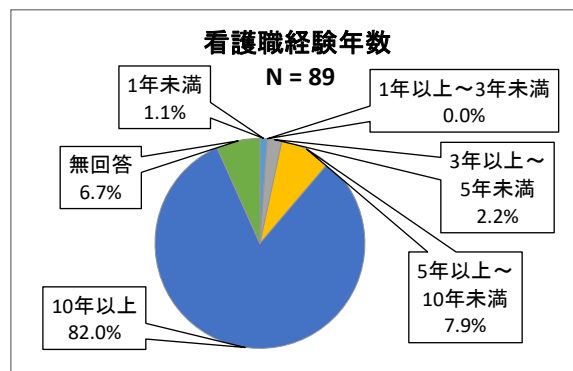
対象者

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師として勤務	49	55.1
2	保健師として勤務	1	1.1
3	助産師として勤務	2	2.2
4	その他の看護職・技術職として勤務	4	4.5
5	看護教員として勤務	32	36.0
6	その他	1	1.1
7	本学看護学研究科 看護学専攻（修士課程）1年生	0	0.0
8	本学看護学研究科 看護学専攻（修士課程）2年生	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	89	100



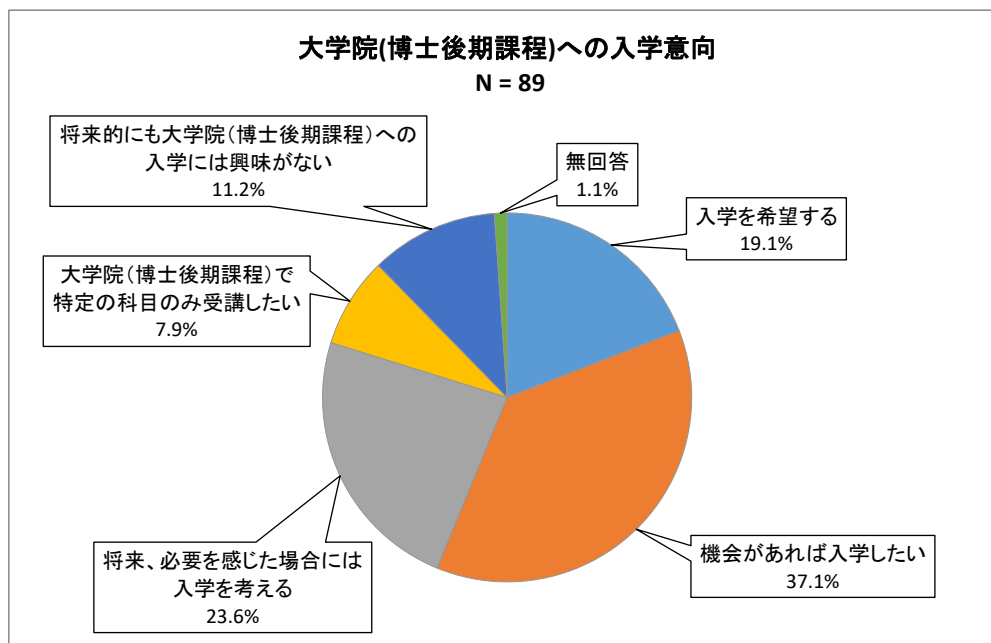
看護職経験年数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1年未満	1	1.1
2	1年以上～3年未満	0	0.0
3	3年以上～5年未満	2	2.2
4	5年以上～10年未満	7	7.9
5	10年以上	73	82.0
	無回答	6	6.7
	N (% <sup>^</sup> -s)	89	100



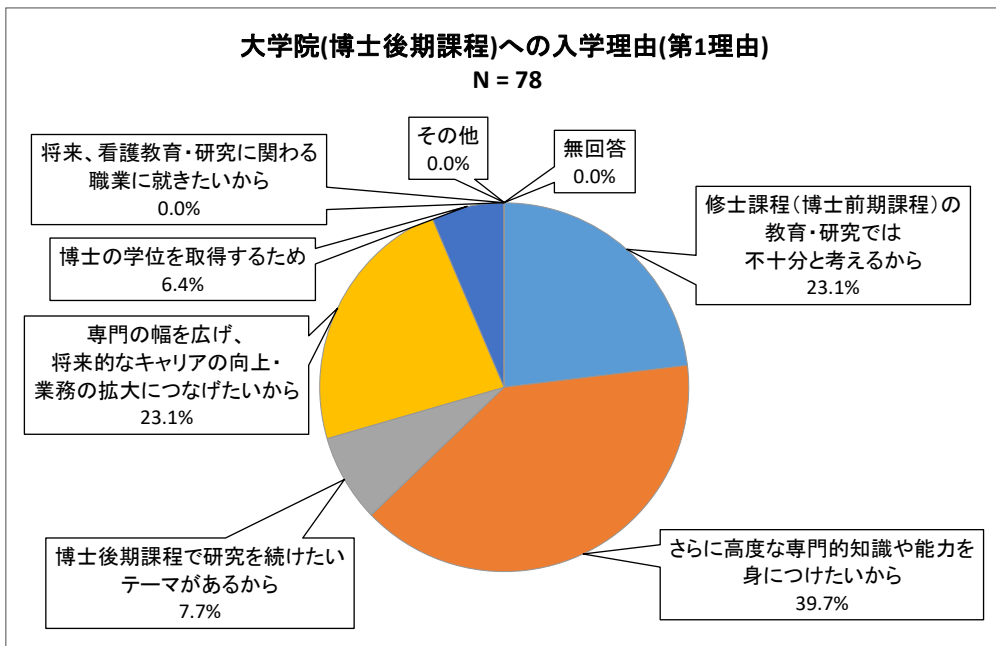
大学院(博士後期課程)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	17	19.1
2	機会があれば入学したい	33	37.1
3	将来、必要を感じた場合には入学を考える	21	23.6
4	大学院(博士後期課程)で特定の科目のみ受講したい	7	7.9
5	将来的にも大学院(博士後期課程)への入学には興味がない	10	11.2
	無回答	1	1.1
	N (% <sup>^</sup> -s)	89	100



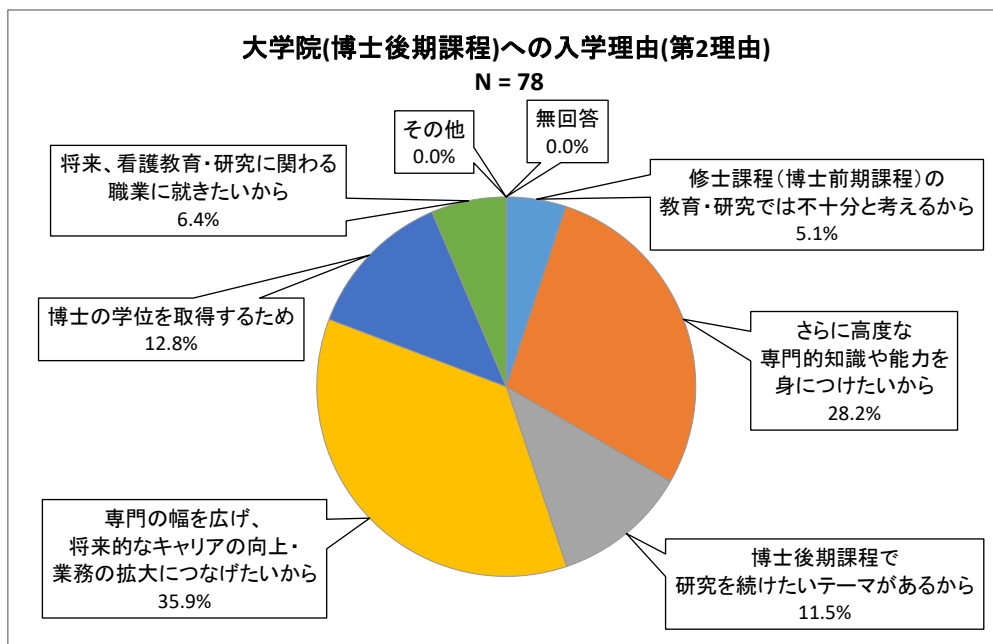
大学院(博士後期課程)への入学理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	修士課程(博士前期課程)の教育・研究では不十分と考えるから	18	23.1
2	さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから	31	39.7
3	博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから	6	7.7
4	専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから	18	23.1
5	博士の学位を取得するため	5	6.4
6	将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから	0	0.0
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	78	100



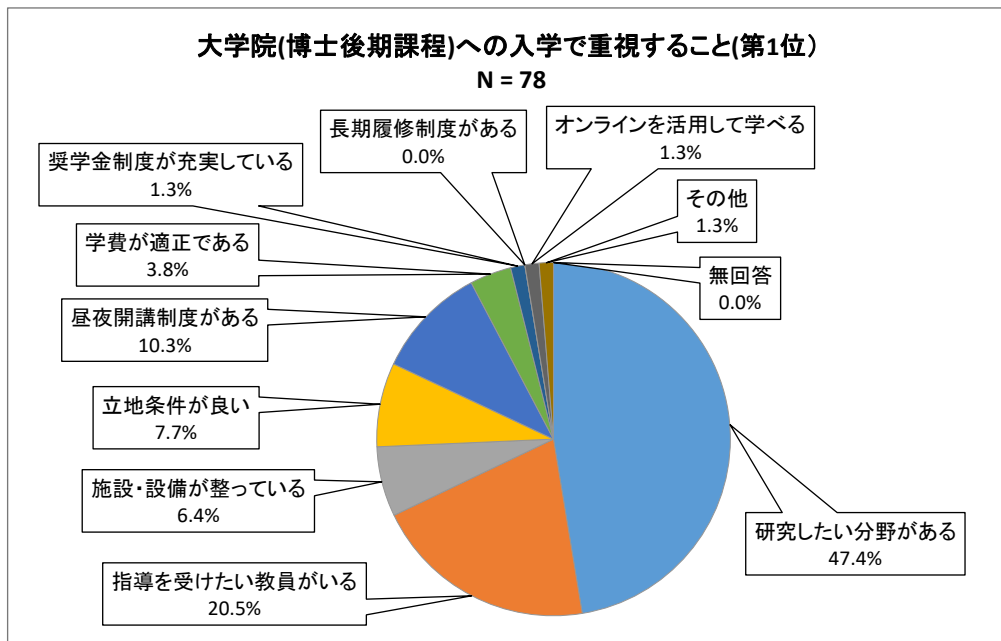
大学院(博士後期課程)への入学理由(第2理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	修士課程(博士前期課程)の教育・研究では不十分と考えるから	4	5.1
2	さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから	22	28.2
3	博士後期課程で研究を続けたいテーマがあるから	9	11.5
4	専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから	28	35.9
5	博士の学位を取得するため	10	12.8
6	将来、看護教育・研究に関わる職業に就きたいから	5	6.4
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	78	100



大学院(博士後期課程)への入学で重視すること(第1位)

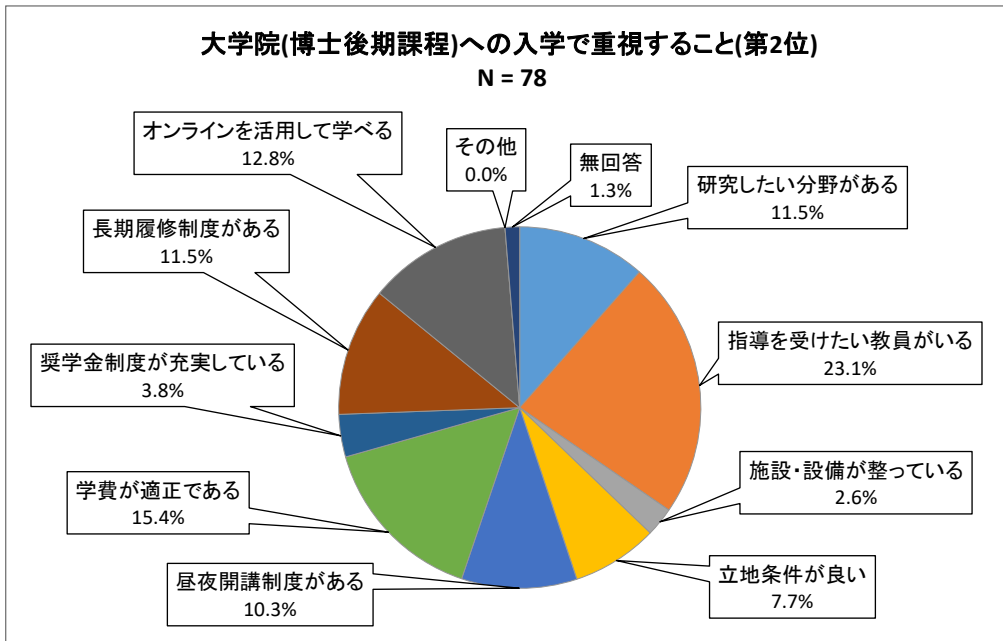
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	研究したい分野がある	37	47.4
2	指導を受けたい教員がいる	16	20.5
3	施設・設備が整っている	5	6.4
4	立地条件が良い	6	7.7
5	昼夜開講制度がある	8	10.3
6	学費が適正である	3	3.8
7	奨学金制度が充実している	1	1.3
8	長期履修制度がある	0	0.0
9	オンラインを活用して学べる	1	1.3
10	その他	1	1.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	78	100





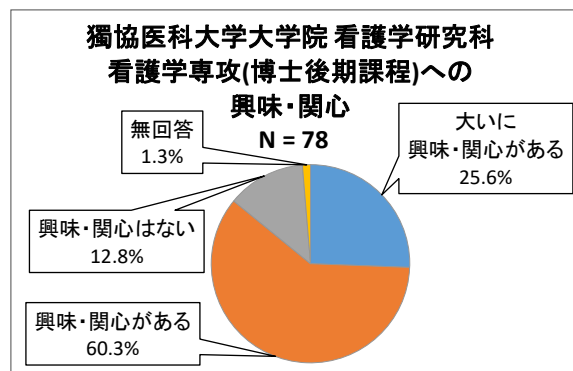
大学院(博士後期課程)への入学で重視すること(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	研究したい分野がある	9	11.5
2	指導を受けたい教員がいる	18	23.1
3	施設・設備が整っている	2	2.6
4	立地条件が良い	6	7.7
5	昼夜開講制度がある	8	10.3
6	学費が適正である	12	15.4
7	奨学金制度が充実している	3	3.8
8	長期履修制度がある	9	11.5
9	オンラインを活用して学べる	10	12.8
10	その他	0	0.0
	無回答	1	1.3
	N (%ベース)	78	100



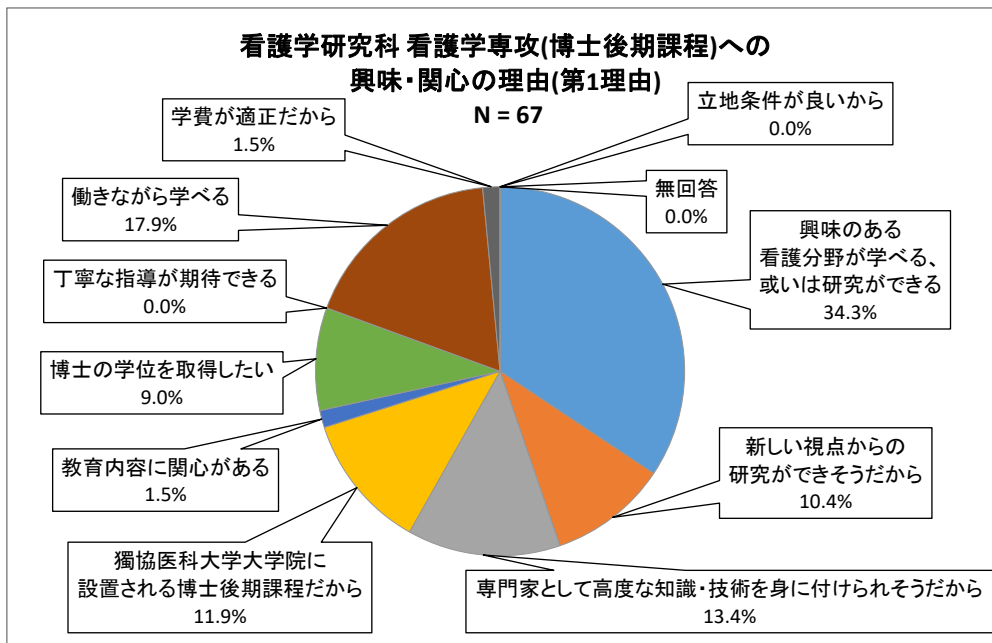
獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	20	25.6
2	興味・関心がある	47	60.3
3	興味・関心はない	10	12.8
	無回答	1	1.3
	N (%ベース)	78	100



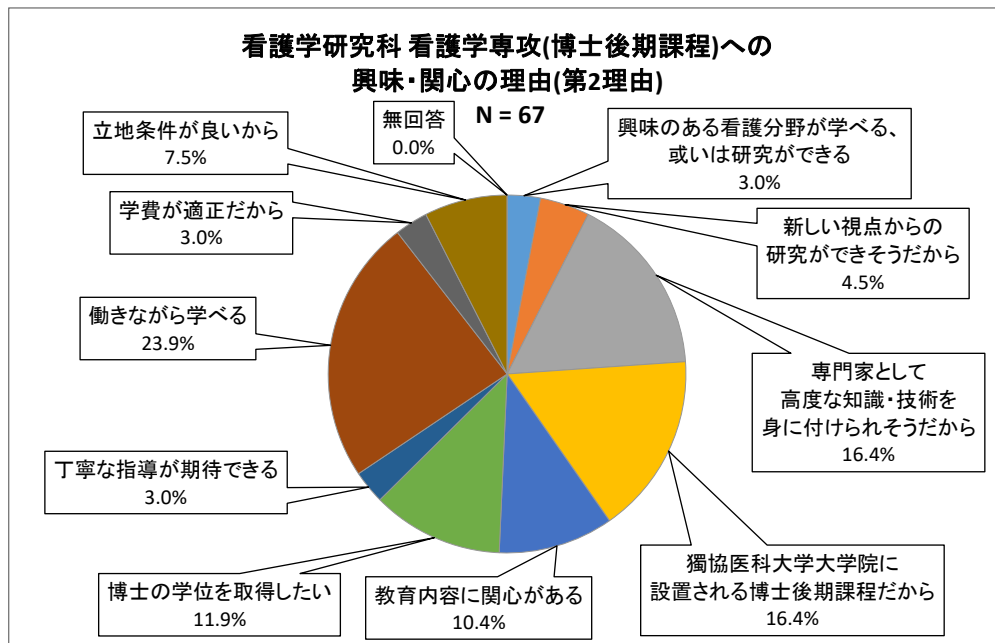
看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心の理由(第1理由)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる	23	34.3
2	新しい視点からの研究ができそうだから	7	10.4
3	専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから	9	13.4
4	獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから	8	11.9
5	教育内容に関心がある	1	1.5
6	博士の学位を取得したい	6	9.0
7	丁寧な指導が期待できる	0	0.0
8	働きながら学べる	12	17.9
9	学費が適正だから	1	1.5
10	立地条件が良いから	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -s)	67	100



看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への興味・関心の理由(第2理由)

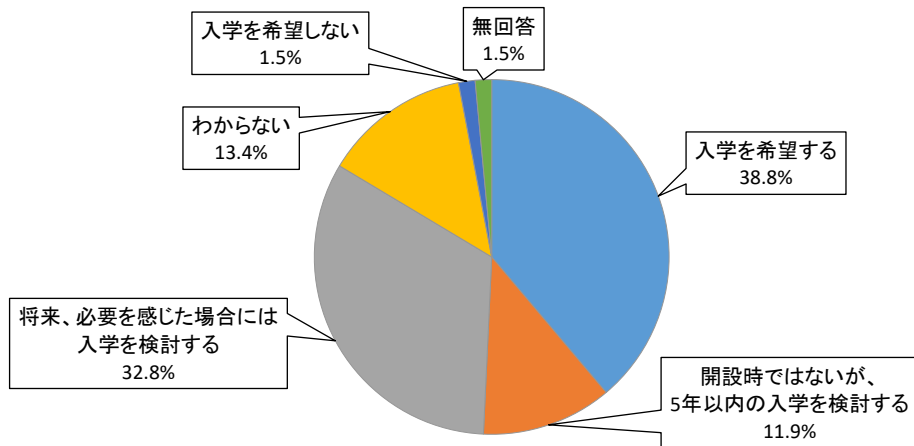
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味のある看護分野が学べる、或いは研究ができる	2	3.0
2	新しい視点からの研究ができそうだから	3	4.5
3	専門家として高度な知識・技術を身に付けられそうだから	11	16.4
4	獨協医科大学大学院に設置される博士後期課程だから	11	16.4
5	教育内容に関心がある	7	10.4
6	博士の学位を取得したい	8	11.9
7	丁寧な指導が期待できる	2	3.0
8	働きながら学べる	16	23.9
9	学費が適正だから	2	3.0
10	立地条件が良いから	5	7.5
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -s)	67	100



獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	26	38.8
2	開設時ではないが、5年以内の入学を検討する	8	11.9
3	将来、必要を感じた場合には入学を検討する	22	32.8
4	わからない	9	13.4
5	入学を希望しない	1	1.5
	無回答	1	1.5
	N (% <sup>^</sup> -s)	67	100

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)への  
入学意向  
N = 67



獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了生に対する  
医療・教育機関等の採用意向に関するアンケート調査報告

令和4年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了生に対する  
医療・教育機関等の採用意向に関するアンケート調査報告

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

令和5年4月に予定している獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の開設に向けて、修了生の就職が見込まれる1都7県（栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、兵庫県）の医療・教育機関等の採用担当者にアンケートを実施し、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了生に対する医療・教育機関等の採用意向を把握することを目的とする。

### (2) 調査対象

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）修了生の就職が見込まれる医療・教育機関等99施設の採用担当者にアンケート調査を実施。

### (3) 調査方法

獨協医科大学大学院修了生の就職が見込まれる医療・教育機関等99施設の採用担当者にアンケート用紙及び獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要を示したリーフレットを送付又は配布し、アンケートを実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ医療・教育機関等から直接郵送。

その結果、54件の有効回答を得た。集計結果より、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了生に対する採用意向を分析した。

### (4) 調査実施期間

令和3年11月～令和3年12月

### (5) 有効回収率等

調査対象数：99施設

有効回答数：54件

有効回収率：約54.5%（有効回答54件 ÷ 調査対象99件）

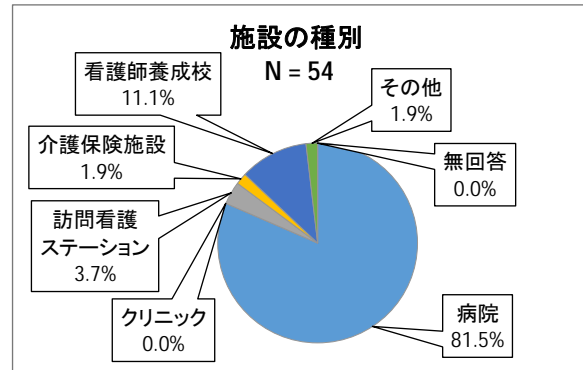
※獨協医科大学大学院にて設置を構想している看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

## 2. 調査結果

### (1) 施設の種別について

施設の種別について調査した結果、回答のあった医療・教育機関等 54 施設のうち、「病院」が 44 件 (81.5%) と最も多く、次いで「看護師養成校」6 件 (11.1%)、「訪問看護ステーション」2 件 (3.7%)、「介護保険施設」1 件 (1.9%)、「その他」1 件 (1.9%) の順になっている。

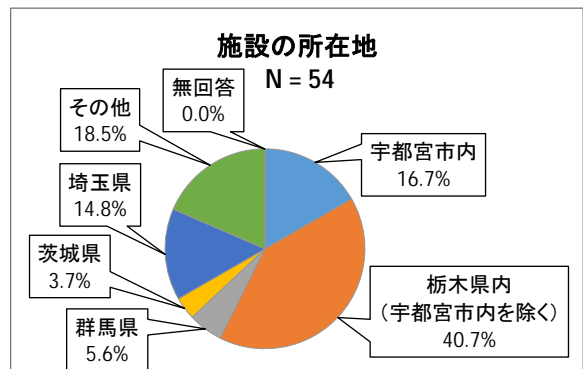
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	44	81.5
2	クリニック	0	0.0
3	訪問看護ステーション	2	3.7
4	介護保険施設	1	1.9
5	看護師養成校	6	11.1
6	その他	1	1.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	54	100



### (2) 施設の所在地について

施設の所在地について調査した結果、回答のあった医療・教育機関等 54 施設のうち、「栃木県内 (宇都宮市内を除く)」が 22 件 (40.7%) と最も多く、次いで「その他」10 件 (18.5%)、「宇都宮市内」9 件 (16.7%)、「埼玉県」8 件 (14.8%)、「群馬県」3 件 (5.6%)、「茨城県」2 件 (3.7%) の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	宇都宮市内	9	16.7
2	栃木県内 (宇都宮市内を除く)	22	40.7
3	群馬県	3	5.6
4	茨城県	2	3.7
5	埼玉県	8	14.8
6	その他	10	18.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	54	100



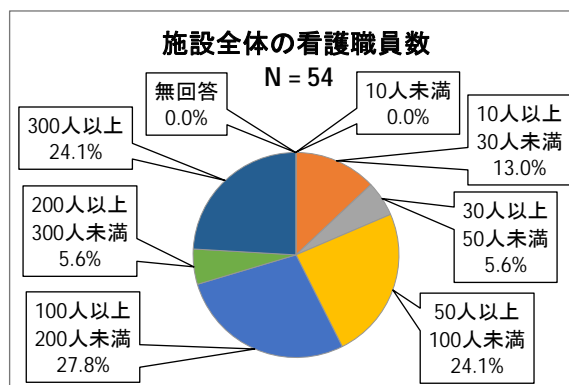


### (3) 施設全体の看護職員数について

施設全体の看護職員数（看護教員含む）について調査した結果、回答のあった医療・教育機関等 54 施設のうち、「100 人以上 200 人未満」が 15 件（27.8%）と最も多く、次いで「50 人以上 100 人未満」13 件（24.1%）、「300 人以上」13 件（24.1%）、「10 人以上 30 人未満」7 件（13.0%）、「30 人以上 50 人未満」3 件（5.6%）、「200 人以上 300 人未満」3 件（5.6%）の順になっている。

施設全体の看護職員数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10人未満	0	0.0
2	10人以上30人未満	7	13.0
3	30人以上50人未満	3	5.6
4	50人以上100人未満	13	24.1
5	100人以上200人未満	15	27.8
6	200人以上300人未満	3	5.6
7	300人以上	13	24.1
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>*</sup> -ス)	54	100

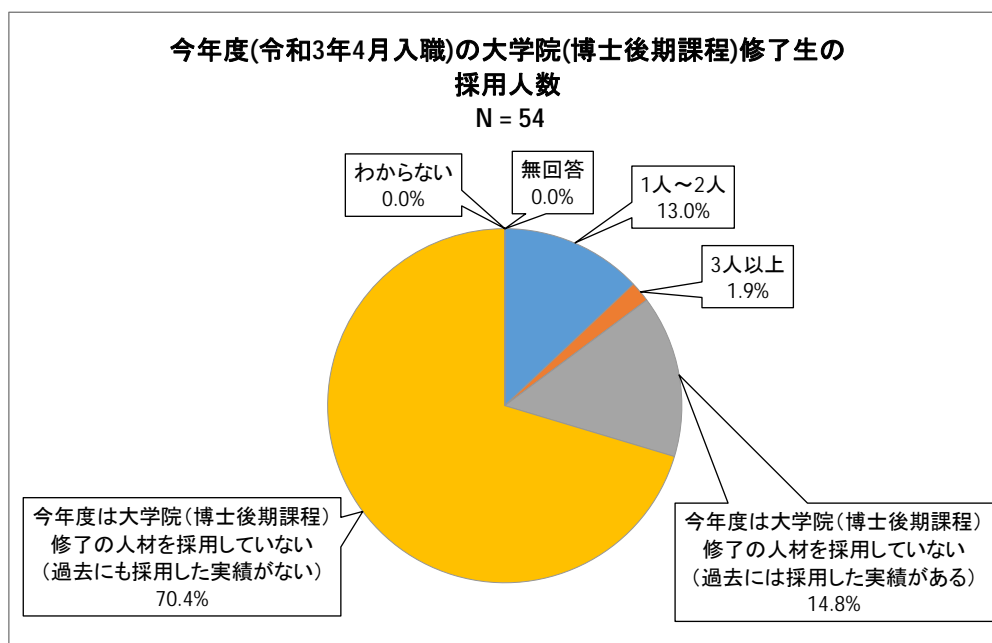


(4) 今年度（令和3年4月入職）の大学院（博士後期課程）修了生の採用人数について

今年度（令和3年4月入職）の大学院（博士後期課程）修了の看護職者の採用人数について調査した結果、回答のあった医療・教育機関等 54 施設のうち、「今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない（過去にも採用した実績がない）」が 38 件（70.4%）と最も多く、次いで「今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない（過去には採用した実績がある）」8 件（14.8%）、「1人～2人」7 件（13.0%）、「3人以上」1 件（1.9%）の順になっている。

今年度(令和3年4月入職)の大学院(博士後期課程)修了生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人～2人	7	13.0
2	3人以上	1	1.9
3	今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない（過去には採用した実績がある）	8	14.8
4	今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない（過去にも採用した実績がない）	38	70.4
5	わからない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	54	100



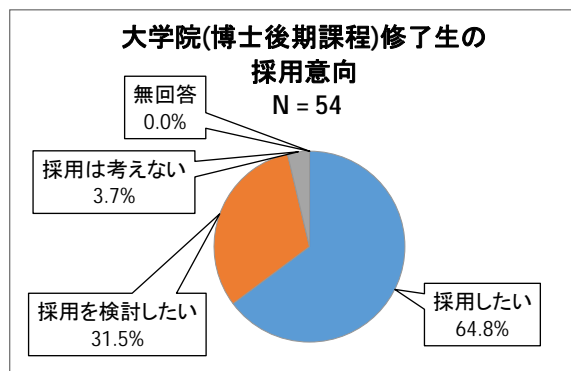
(5) 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向について

将来的な大学院（博士後期課程）修了生の看護職者の採用意向について調査した結果、回答のあった医療・教育機関等 54 施設のうち、「採用したい」が 35 件（64.8%）と最も多く、次いで「採用を検討したい」17 件（31.5%）、「採用は考えない」2 件（3.7%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合計すると、52 人（96.3%）となっている。

大学院(博士後期課程)修了生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	35	64.8
2	採用を検討したい	17	31.5
3	採用は考えない	2	3.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	54	100



(6) 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向の理由について

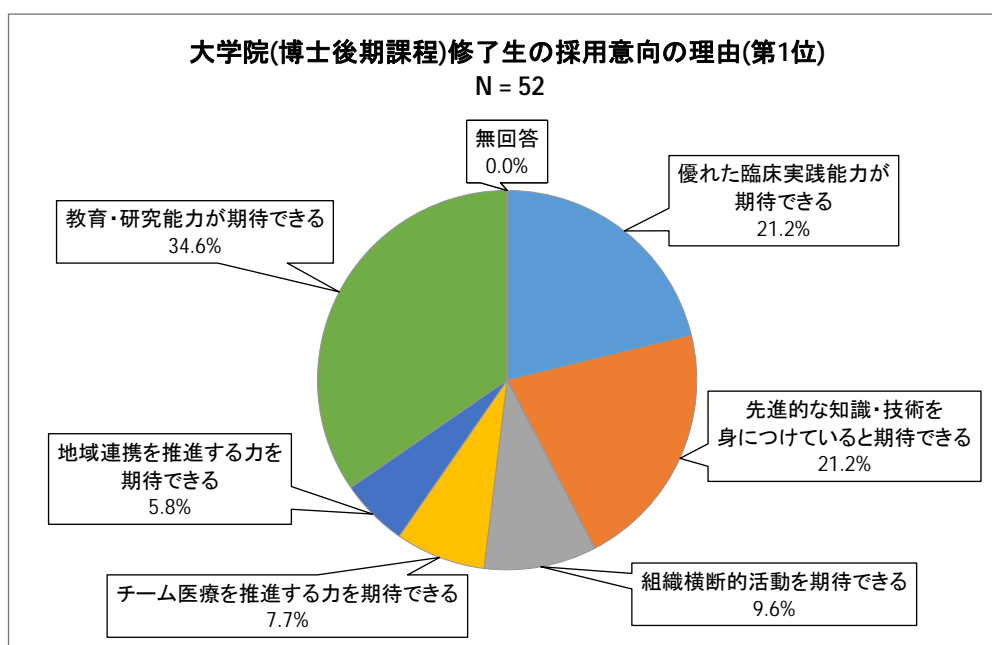
6-1 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向の理由（第1位）

「(5) 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向について」にて「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した52施設に、大学院（博士後期課程）修了生の採用意向の理由（第1位）について調査した。

その結果、「教育・研究能力が期待できる」が18件（34.6%）と最も多く、次いで「優れた臨床実践能力が期待できる」11件（21.2%）、「先進的な知識・技術を身につけていると期待できる」11件（21.2%）、「組織横断的活動を期待できる」5件（9.6%）、「チーム医療を推進する力を期待できる」4件（7.7%）、「地域連携を推進する力を期待できる」3件（5.8%）の順になっている。

大学院(博士後期課程)修了生の採用意向の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	優れた臨床実践能力が期待できる	11	21.2
2	先進的な知識・技術を身につけていると期待できる	11	21.2
3	組織横断的活動を期待できる	5	9.6
4	チーム医療を推進する力を期待できる	4	7.7
5	地域連携を推進する力を期待できる	3	5.8
6	教育・研究能力が期待できる	18	34.6
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>ペ</sup> -ス)	52	100



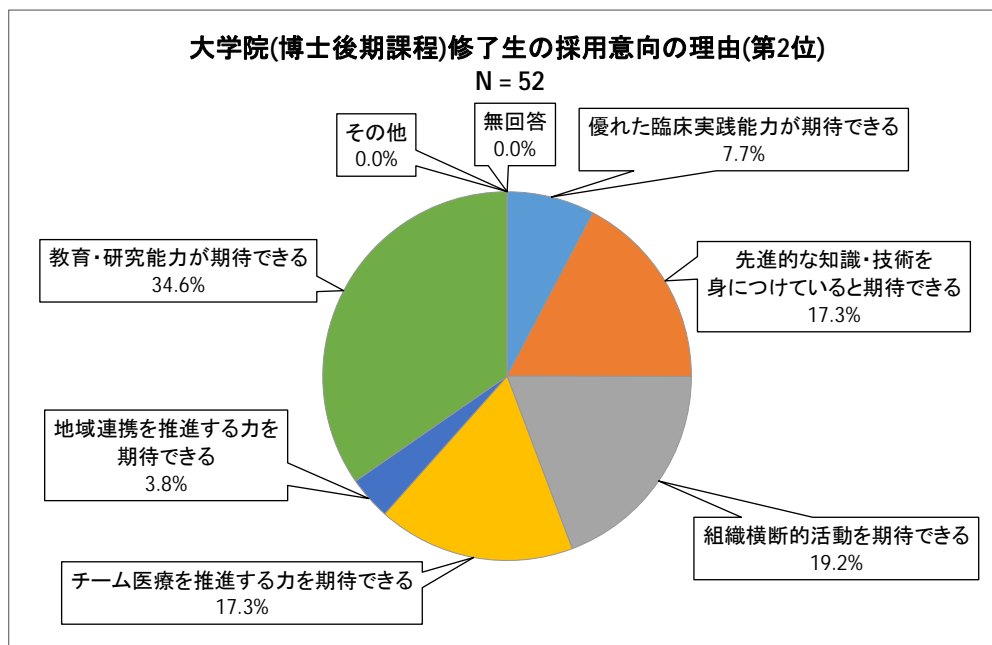
## 6-2 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向の理由（第2位）

「(5) 大学院（博士後期課程）修了生の採用意向について」にて「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した52施設に、大学院（博士後期課程）修了生の採用意向の理由（第2位）について調査した。

その結果、「教育・研究能力が期待できる」が18件（34.6%）と最も多く、次いで「組織横断的活動を期待できる」10件（19.2%）、「先進的な知識・技術を身につけていると期待できる」9件（17.3%）、「チーム医療を推進する力を期待できる」9件（17.3%）、「優れた臨床実践能力が期待できる」4件（7.7%）、「地域連携を推進する力を期待できる」2件（3.8%）の順になっている。

大学院(博士後期課程)修了生の採用意向の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	優れた臨床実践能力が期待できる	4	7.7
2	先進的な知識・技術を身につけていると期待できる	9	17.3
3	組織横断的活動を期待できる	10	19.2
4	チーム医療を推進する力を期待できる	9	17.3
5	地域連携を推進する力を期待できる	2	3.8
6	教育・研究能力が期待できる	18	34.6
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	52	100



(7) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について

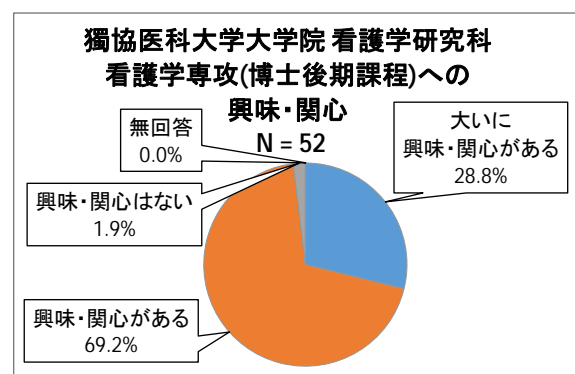
「(5) 大学院 (博士後期課程) 修了生の採用意向について」にて「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した52施設に、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について調査した。

その結果、「興味・関心がある」が36件(69.2%)と最も多く、次いで「大いに興味・関心がある」15件(28.8%)、「興味・関心はない」1件(1.9%)の順になっている。

なお、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」の肯定的な回答を合計すると、51件(98.1%)となっている。

獨協医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻  
(博士後期課程)への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	15	28.8
2	興味・関心がある	36	69.2
3	興味・関心はない	1	1.9
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>←</sup> -)	52	100



(8) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心の理由について

### 8-1 興味・関心の理由 (第1位)

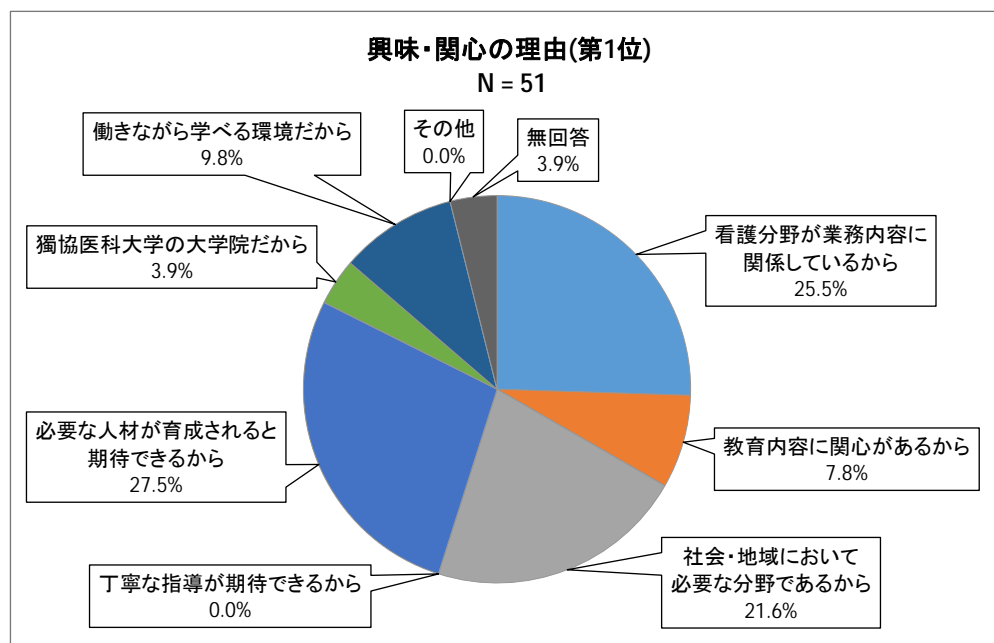
「(7) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について」にて興味・関心を示した 51 施設に、興味・関心の理由 (第1位) について調査した。

その結果、「必要な人材が育成されると期待できるから」が 14 件 (27.5%) と最も多く、次いで「看護分野が業務内容に関係しているから」13 件 (25.5%)、「社会・地域において必要な分野であるから」11 件 (21.6%)、「働きながら学べる環境だから」5 件 (9.8%)、「教育内容に関心があるから」4 件 (7.8%)、「獨協医科大学の大学院だから」2 件 (3.9%) の順になっている。

※無回答 2 件 (3.9%)

興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護分野が業務内容に関係しているから	13	25.5
2	教育内容に関心があるから	4	7.8
3	社会・地域において必要な分野であるから	11	21.6
4	丁寧な指導が期待できるから	0	0.0
5	必要な人材が育成されると期待できるから	14	27.5
6	獨協医科大学の大学院だから	2	3.9
7	働きながら学べる環境だから	5	9.8
8	その他	0	0.0
	無回答	2	3.9
	N (%ベース)	51	100



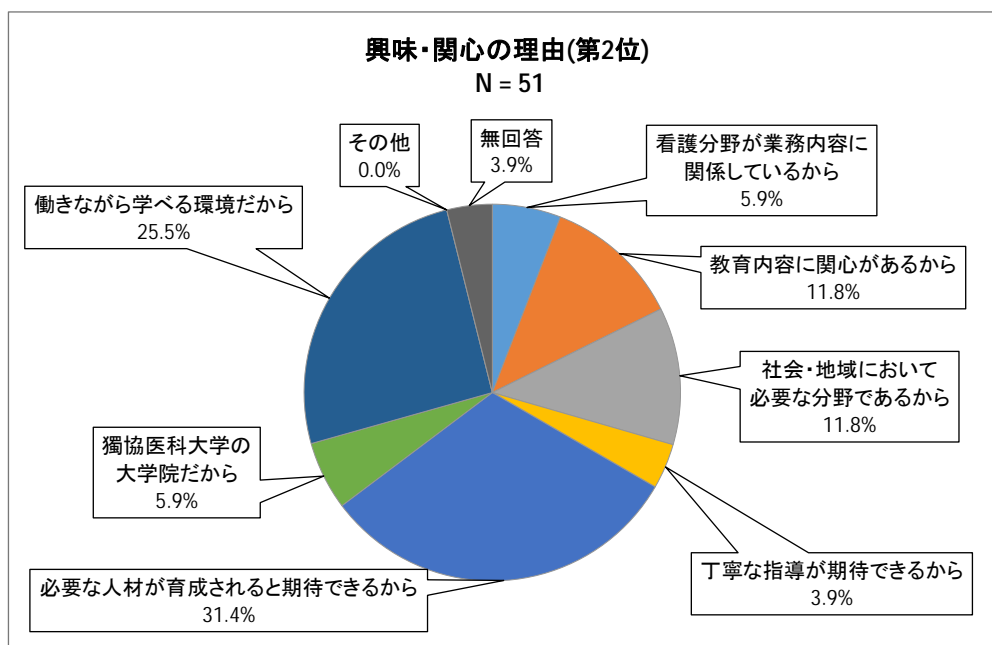
## 8-2 興味・関心の理由（第2位）

「(7) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）への興味・関心について」にて興味・関心を示した51施設に、興味・関心の理由（第2位）について調査した。

その結果、「必要な人材が育成されると期待できるから」が16件（31.4%）と最も多く、次いで「働きながら学べる環境だから」13件（25.5%）、「教育内容に関心があるから」6件（11.8%）、「社会・地域において必要な分野であるから」6件（11.8%）、「看護分野が業務内容に関係しているから」3件（5.9%）、「獨協医科大学の大学院だから」3件（5.9%）、「丁寧な指導が期待できるから」2件（3.9%）の順になっている。 ※無回答2件（3.9%）

興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護分野が業務内容に関係しているから	3	5.9
2	教育内容に関心があるから	6	11.8
3	社会・地域において必要な分野であるから	6	11.8
4	丁寧な指導が期待できるから	2	3.9
5	必要な人材が育成されると期待できるから	16	31.4
6	獨協医科大学の大学院だから	3	5.9
7	働きながら学べる環境だから	13	25.5
8	その他	0	0.0
	無回答	2	3.9
	N (%ベース)	51	100





(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) の社会的必要性について

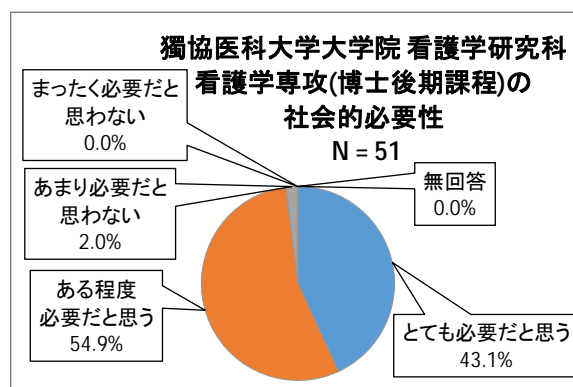
「(7) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への興味・関心について」にて興味・関心を示した 51 施設に、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) の社会的必要性について調査した。

その結果、「ある程度必要だと思う」が 28 件 (54.9%) と最も多く、次いで「とても必要だと思う」22 件 (43.1%)、「あまり必要だと思わない」1 件 (2.0%) の順になっている。

なお、社会的必要性について「とても必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」の肯定的な回答を合計すると、50 件 (98.0%) となっている。

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても必要だと思う	22	43.1
2	ある程度必要だと思う	28	54.9
3	あまり必要だと思わない	1	2.0
4	まったく必要だと思わない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	51	100



(10) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 修了生の採用意向について

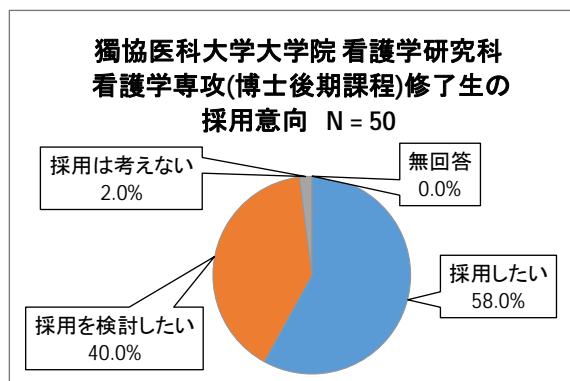
「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) の社会的必要性について」にて肯定的な回答をした 50 施設に、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 修了生の採用意向について調査した。

その結果、「採用したい」が 29 件 (58.0%) と最も多く、次いで「採用を検討したい」20 件 (40.0%)、「採用は考えない」1 件 (2.0%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、49 件 (98.0%) となっている。

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)修了生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	29	58.0
2	採用を検討したい	20	40.0
3	採用は考えない	1	2.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	50	100

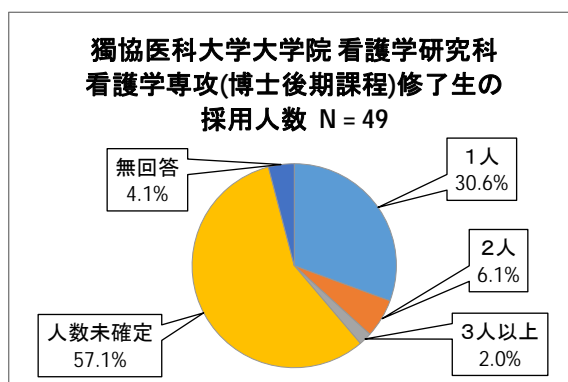


(11) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 修了生の採用人数について  
 「(10) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 修了生の採用意向について」にて肯定的な採用意向を示した 49 施設に対して、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 修了生の将来的な採用人数について調査した。

その結果、「人数未確定」が 28 件 (57.1%) と最も多く、次いで「1人」15 件 (30.6%)、「2人」3 件 (6.1%)、「3人以上」1 件 (2.0%) の順になっている。 ※無回答 2 件 (4.1%)

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)修了生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	15	30.6
2	2人	3	6.1
3	3人以上	1	2.0
4	人数未確定	28	57.1
	無回答	2	4.1
	N (% <sup>^</sup> -ス)	49	100



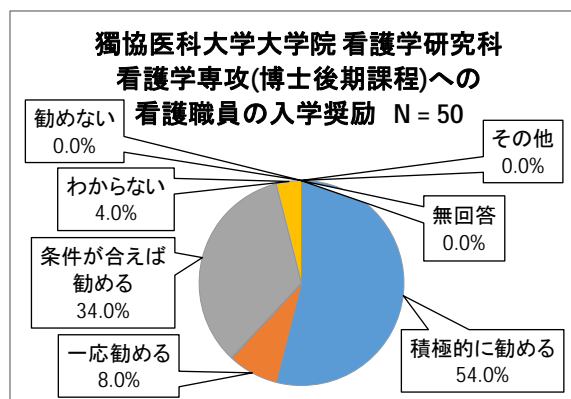
(12) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への看護職員の入学奨励について

「(9) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) の社会的必要性について」にて肯定的な回答をした 50 施設に、現役の看護職員の獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) への入学奨励について調査した。

その結果、「積極的に勧める」が 27 件 (54.0%) と最も多く、次いで「条件が合えば勧める」17 件 (34.0%)、「一応勧める」4 件 (8.0%)、「わからない」2 件 (4.0%) の順になっている。

獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)への看護職員の入学奨励

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に勧める	27	54.0
2	一応勧める	4	8.0
3	条件が合えば勧める	17	34.0
4	わからない	2	4.0
5	勧めない	0	0.0
6	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -ス)	50	100



### 3. 調査結果のまとめ

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の修了生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(10) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）修了生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(11) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）修了生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数未確定」(※)）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「3人以上」は最低数である「3人」として計算した。

「人数未確定」とは、「(10) 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）修了生の採用意向について」にて、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下表より、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の修了生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、30人分となる。入学定員は3人であるため、10.0倍の採用意向人数を確保できている。

また、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した施設の採用意向人数を合計すると52人分となり、これは入学定員3人に対して、約17.3倍となる。

看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)修了生の採用意向×採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計
1人(A)	6	(a)	(A) × (a) 6
2人(B)	1	(b)	(B) × (b) 2
3人以上(C)	1	(c)	(C) × (c) 3
人数は未確定(D)	19	(d)	(D) × (d) 19
無回答	2		

合計採用意向 30人

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討した い」の合計		合計
1人(A)	15	(a)	(A) × (a) 15
2人(B)	3	(b)	(B) × (b) 6
3人以上(C)	1	(c)	(C) × (c) 3
人数は未確定(D)	28	(d)	(D) × (d) 28
無回答	2		

合計採用意向 52人

採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）の修了生の進路は十分に確保できるものとする。

# 調査票

獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の  
設置に係るアンケート調査

- ・獨協医科大学では、令和5年（2023年）4月を目途に大学院看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置を計画しています。このアンケート調査は設置計画の基礎資料とするため、貴施設の採用状況・意向等についてお伺いするものです。ご協力をお願いします。  
 ・このアンケートの結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。  
 ・回答は、該当する番号を回答欄の□の中へ直接ご記入ください。  
 ＊内容は構想中であり、変更となる場合がございます。

## ★調査回答締め切りのお願い★

令和3年11月26日（金）までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします

問1 貴施設の種類について、次の中から該当する番号を 1つ お選びください。 【回答欄】

- |              |          |   |
|--------------|----------|---|
| 1 病院         | 4 介護保険施設 | □ |
| 2 クリニック      | 5 看護師養成校 |   |
| 3 訪問看護ステーション | 6 その他    |   |
- [具体的に: ]

問2 貴施設の所在地について、次の中から該当する番号を 1つ お選びください。

- |                  |           |   |
|------------------|-----------|---|
| 1 宇都宮市内          | 4 茨城県     | □ |
| 2 栃木県内（宇都宮市内を除く） | 5 埼玉県     |   |
| 3 群馬県            | 6 その他 [ ] |   |

問3 貴施設（施設全体）における看護職員数（看護教員含む）について、次の中から該当する番号を 1つ お選びください。

- |                |                 |   |
|----------------|-----------------|---|
| 1 10人未満        | 5 100人以上 200人未満 | □ |
| 2 10人以上 30人未満  | 6 200人以上 300人未満 |   |
| 3 30人以上 50人未満  | 7 300人以上        |   |
| 4 50人以上 100人未満 |                 |   |

問4 貴施設では今年度（令和3年4月入職）に、大学院（博士後期課程）修了の看護職者を何人程度採用されましたか。その人数について、次の中から 1つ お選びください。

- |  |   |
|--|---|
| 1 1人～2人  | □ |
| 2 3人以上   |   |
| 3 今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない<br><u>（過去には採用した実績がある）</u> |   |
| 4 今年度は大学院（博士後期課程）修了の人材を採用していない<br><u>（過去にも採用した実績がない）</u> |   |
| 5 わからない  |   |

問5 貴施設における将来的な大学院（博士後期課程）修了生の採用意向について、どのようにお考えですか。次の中から 1つ お選びください。

- |            |   |
|------------|---|
| 1 採用したい    | □ |
| 2 採用を検討したい |   |
| 3 採用は考えない  |   |
- 1、2を選択された方は問6へお進みください。  
3を選択された方は問13へお進みください。

問6 問5で「採用したい」「採用を検討したい」と回答したのはどのような理由からですか。次の中から該当するものを第2位までお選びください。

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| 1 優れた臨床実践能力が期待できる         | 第1位 □ |
| 2 先進的な知識・技術を身につけていると期待できる |       |
| 3 組織横断的活動を期待できる           | 第2位 □ |
| 4 チーム医療を推進する力を期待できる       |       |
| 5 地域連携を推進する力を期待できる        |       |
| 6 教育・研究能力が期待できる           |       |
| 7 その他 [具体的に: ]            |       |

裏面へお進みください



ここからは、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の概要資料（リーフレット）をご覧ください

**[獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）について]**

問7 本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）について、どのようにお考えですか。次の中から 1つお選びください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 興味・関心はない

1、2 を選択された方は問 8 へお進みください。  
3 を選択された方は問 13 へお進みください。

問8 問 7 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」を選択した理由を、次の中から第 2 位までお選びください。

- 1 看護分野が業務内容に関係しているから
- 2 教育内容に関心があるから
- 3 社会・地域において必要な分野であるから
- 4 丁寧な指導が期待できるから
- 5 必要な人材が育成されると期待できるから
- 6 獨協医科大学の大学院だから
- 7 働きながら学べる環境だから
- 8 その他 [具体的に:

第 1 位

第 2 位

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

問9 貴施設では、本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の特徴について、これからの社会でどの程度必要だと思われるか。次の中から 1つお選びください。

- 1 とても必要だと思う
- 2 ある程度必要だと思う
- 3 あまり必要だと思わない
- 4 まったく必要だと思わない

1、2 を選択された方は問 10 へお進みください。  
3、4 を選択された方は問 13 へお進みください。

問10 本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）修了生の採用意向について、次の中から 1つお選びください。

- 1 採用したい
- 2 採用を検討したい
- 3 採用は考えない

1、2 を選択された方は問 11 へお進みください。  
3 を選択された方は問 12 へお進みください。

問11 問10で「採用したい」「採用を検討したい」を選択された施設におたずねします。貴施設では将来、獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の修了生を毎年何人程度採用したいとお考えですか。次の中から 1つお選びください。

- 1 1人
- 2 2人
- 3 3人以上
- 4 人数未確定

番号でご回答  
ください

**[獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）への看護職員の入学について]**

問12 貴施設では、仮に現役の看護職員（看護教員含む）から本学設置予定の看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）で学びたいと申し入れがあった場合（学費は職員の自己負担として）、入学を勧めますか。次の中から 1つお選びください。

- 1 積極的に勧める
- 2 一応勧める
- 3 条件が合えば勧める
- 4 わからない
- 5 勧めない
- 6 その他 [具体的に:

問13 獨協医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の設置計画について、ご意見・ご要望をお聞かせください。その他、大学の教育内容・活動等についてご希望がございましたら、あわせてご記入ください。

◆◇ アンケートは以上となります。最後までご協力いただきありがとうございました ◇◆  
獨協医科大学大学院 看護学研究科 博士後期課程設置準備室（担当：小平）TEL：0282-87-2107

# 計画概要



# 獨協医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻 【博士後期課程】(仮称)

入学定員：3名予定(収容定員9名)  
取得学位：博士(看護学)

令和5年  
4月  
設置予定

## 教育目的

獨協医科大学大学院は、医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授・研究して医学及び看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とします。

本看護学研究科博士後期課程はこの目的に則り、地域社会及び人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に寄与する研究を自立して遂行するとともに、地域社会及び人々の健康課題の解決に貢献する看護職者を育成できる能力を有する研究者を育成します。

## 博士後期課程概要

主な科目の概要

生体機能ケア	生体機能に影響を及ぼす自律神経活動や循環動態、生体機能の乱れとしての睡眠障害や冷え症についての理解を深め、看護ケアのエビデンスについて探究する。
生活環境調整支援システム	看護の対象が生活する療養環境や生活環境、人間と環境との相互作用や疾患との関係性についての理解を深め、環境調整支援システムのエビデンスについて探究する。
地域ケアシステム開発	地域診断に基づく人々の健康課題に対応し、生活の質を支える基盤となる地域づくりや保健医療福祉施策についての理解を深め、地域ケアシステムのエビデンスについて探究する。

このほか、看護実践ケア開発、看護キャリアマネジメントなども想定しています。対面授業とオンライン授業を併用するハイブリッド型授業を予定しています。

### 【お問い合わせ】

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880  
獨協医科大学大学院 博士後期課程設置準備室  
Tel 0282-87-2489  
Email kangogakubu@dokkyomed.ac.jp

内容は設置構想中のものであり、変更する場合があります。



## . 出願資格

修士の学位もしくは専門職学位を有する者  
外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者  
文部科学大臣の指定した者  
本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

## . 修了要件

博士後期課程に3年以上在籍し、所定の単位（共通科目3単位、専門科目2単位以上、博士特別研究9単位の14単位以上）を修得するとともに、必要な研究指導を受け、学位論文の審査ならびに最終試験に合格することとする。

## . 社会人に対する配慮

大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を用いて昼夜開講講義、必要に応じ集中講義、特例措置の授業時間及び長期履修制度を導入し在職のまま学ぶことができるように配慮します。

## . 設置場所

栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地

類似する近隣の大学院博士後期課程の納付金等

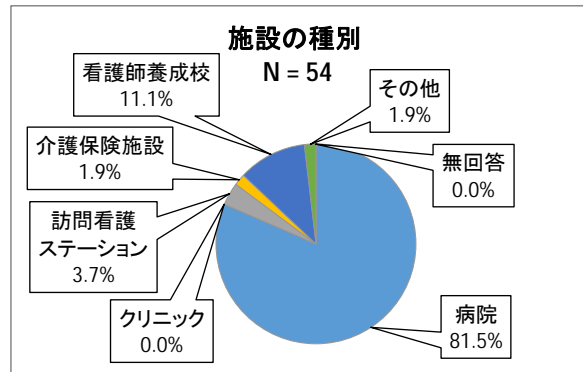
所在地	大学院名	研究科名 専攻名	入学定員 (名)	入学金 (円)	授業料 (円)	施設設備費等 (円)	初年度納付金 (円)	3年間の合計 (円)
栃木県	獨協医科大学 大学院	看護学研究科 看護学専攻（仮称）	3 (予定)	200,000	600,000	-	800,000	<b>2,000,000</b>
栃木県	自治医科大学 大学院	看護学研究科 看護学専攻	2	282,000	585,800	-	867,800	2,039,400
栃木県	国際医療福祉 大学大学院	医療福祉学研究科 保健医療学専攻	80	300,000	800,000	200,000	1,300,000	3,300,000
茨城県	茨城県立医療 大学大学院	保健医療科学研究科 保健医療科学専攻	5	282,000 564,000 茨城県内者	535,800	-	817,800 1,099,800 茨城県内者	1,889,400 2,171,400 茨城県内者
群馬県	群馬県立県民健康 科学大学大学院	看護学研究科 看護学専攻	2	141,000 282,000 群馬県内者	535,800	-	676,800 817,800 群馬県内者	1,748,400 1,889,400 群馬県内者
埼玉県	埼玉県立 大学大学院	保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻	6	211,500 423,000 埼玉県内者	621,000	-	832,500 1,044,000 埼玉県内者	2,074,500 2,286,000 埼玉県内者
茨城県	筑波大学 大学院	人間総合科学研究群博士 後期課程（医学系）看護科学	8	282,000	535,800	-	817,800	1,889,400
群馬県	群馬大学 大学院	保健学研究科 保健学専攻	10	282,000	535,800	-	817,800	1,889,400

各大学院の情報については、ホームページ等より転載しています。  
入学定員は看護学領域に限定されない保健医療福祉系の領域も含めた専攻全体を入学定員としている大学院もありますので、詳細は当該大学院のホームページをご確認ください。  
また、諸会費等を含んでいないもしくは特定の条件により入学金が免除される大学院もありますので、詳細は当該大学院のホームページをご確認ください。  
獨協医科大学大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）（仮称）の学納金は検討中で変更する可能性があります。

# 単純集計表

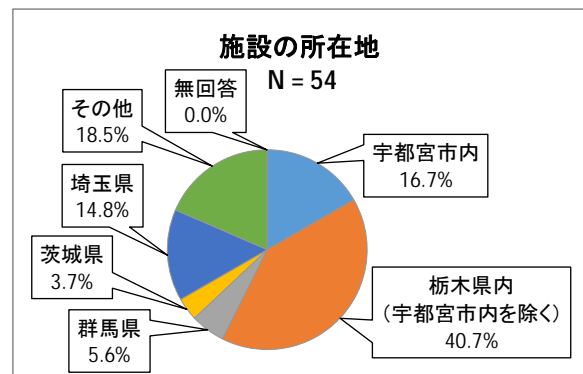
施設の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	44	81.5
2	クリニック	0	0.0
3	訪問看護ステーション	2	3.7
4	介護保険施設	1	1.9
5	看護師養成校	6	11.1
6	その他	1	1.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	54	100



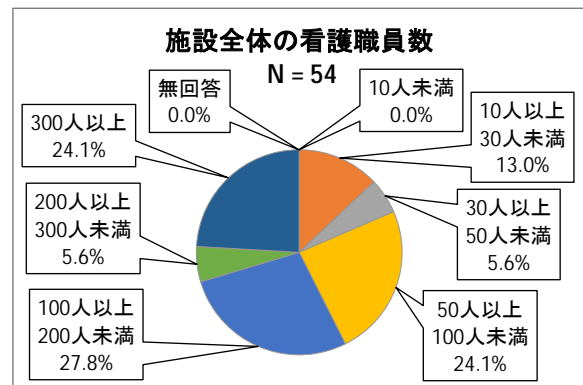
施設の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	宇都宮市内	9	16.7
2	栃木県内 (宇都宮市内を除く)	22	40.7
3	群馬県	3	5.6
4	茨城県	2	3.7
5	埼玉県	8	14.8
6	その他	10	18.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	54	100



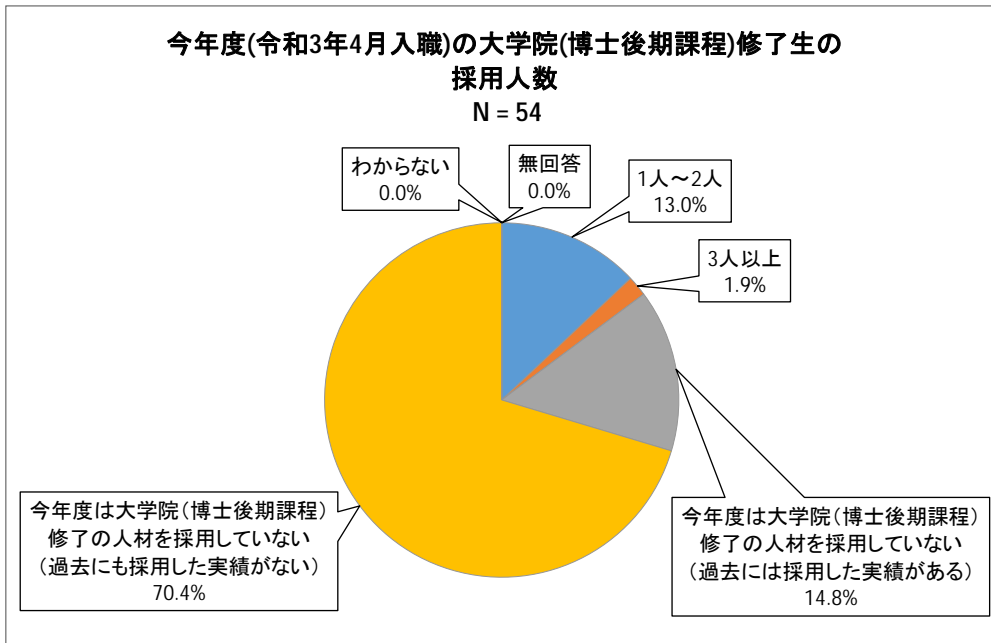
施設全体の看護職員数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10人未満	0	0.0
2	10人以上30人未満	7	13.0
3	30人以上50人未満	3	5.6
4	50人以上100人未満	13	24.1
5	100人以上200人未満	15	27.8
6	200人以上300人未満	3	5.6
7	300人以上	13	24.1
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	54	100



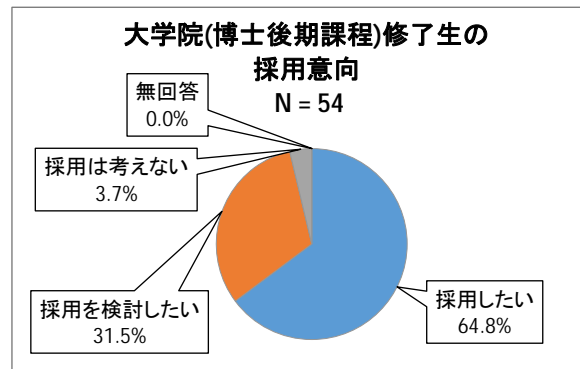
今年度(令和3年4月入職)の大学院(博士後期課程)修了生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人~2人	7	13.0
2	3人以上	1	1.9
3	今年度は大学院(博士後期課程)修了の人材を採用していない (過去には採用した実績がある)	8	14.8
4	今年度は大学院(博士後期課程)修了の人材を採用していない (過去にも採用した実績がない)	38	70.4
5	わからない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	54	100



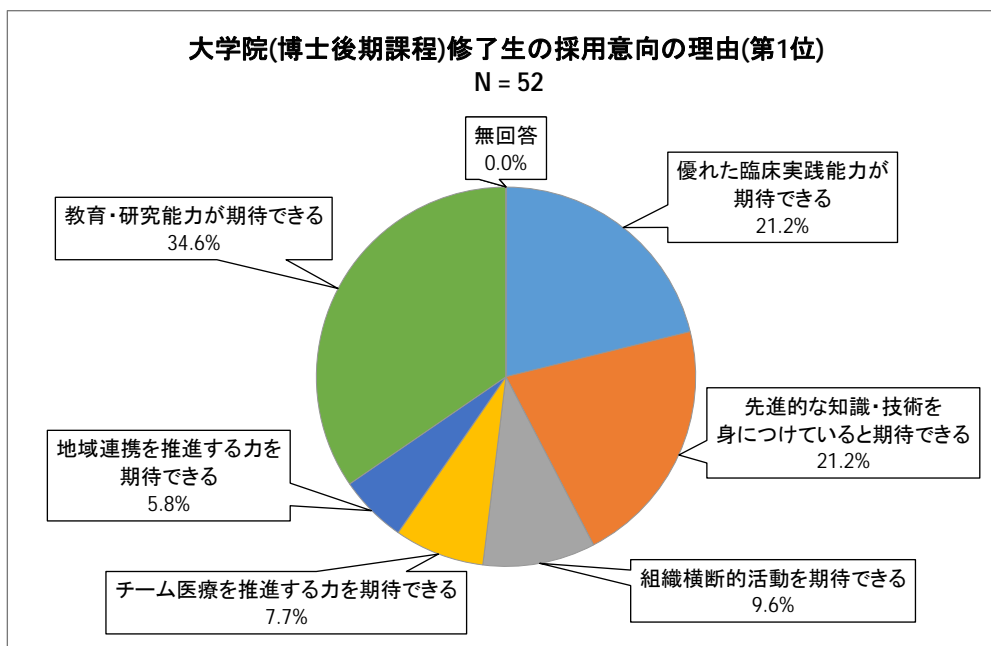
大学院(博士後期課程)修了生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	35	64.8
2	採用を検討したい	17	31.5
3	採用は考えない	2	3.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	54	100



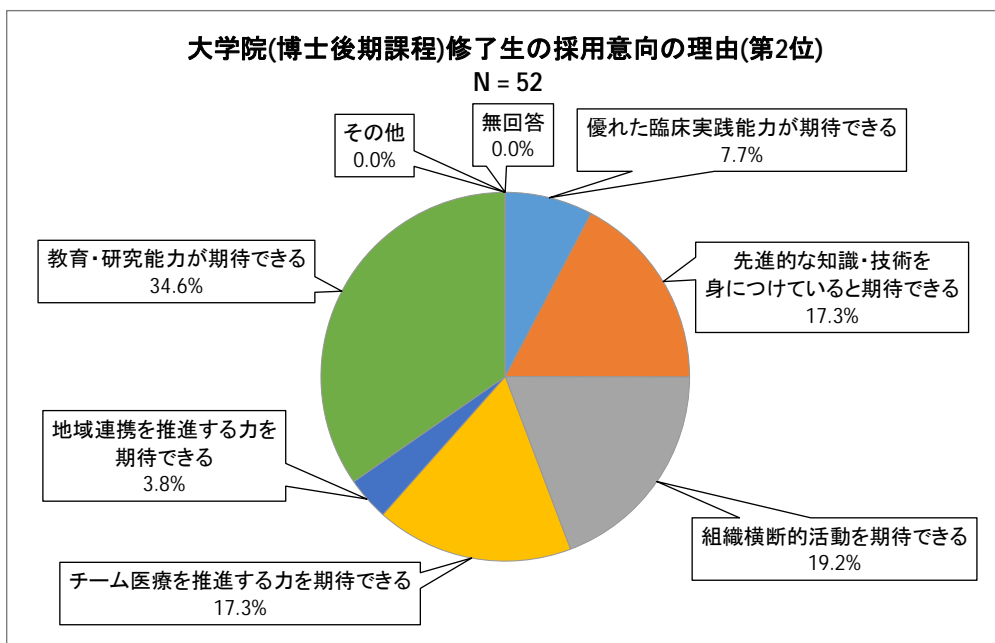
大学院(博士後期課程)修了生の採用意向の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	優れた臨床実践能力が期待できる	11	21.2
2	先進的な知識・技術を身につけていると期待できる	11	21.2
3	組織横断的活動を期待できる	5	9.6
4	チーム医療を推進する力を期待できる	4	7.7
5	地域連携を推進する力を期待できる	3	5.8
6	教育・研究能力が期待できる	18	34.6
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	52	100



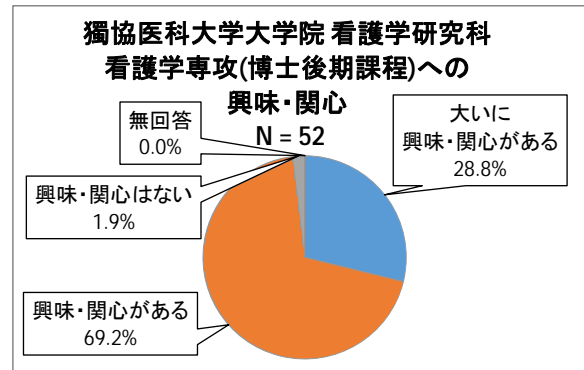
大学院(博士後期課程)修了生の採用意向の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	優れた臨床実践能力が期待できる	4	7.7
2	先進的な知識・技術を身につけていると期待できる	9	17.3
3	組織横断的活動を期待できる	10	19.2
4	チーム医療を推進する力を期待できる	9	17.3
5	地域連携を推進する力を期待できる	2	3.8
6	教育・研究能力が期待できる	18	34.6
7	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (% <sup>^</sup> -ス)	52	100



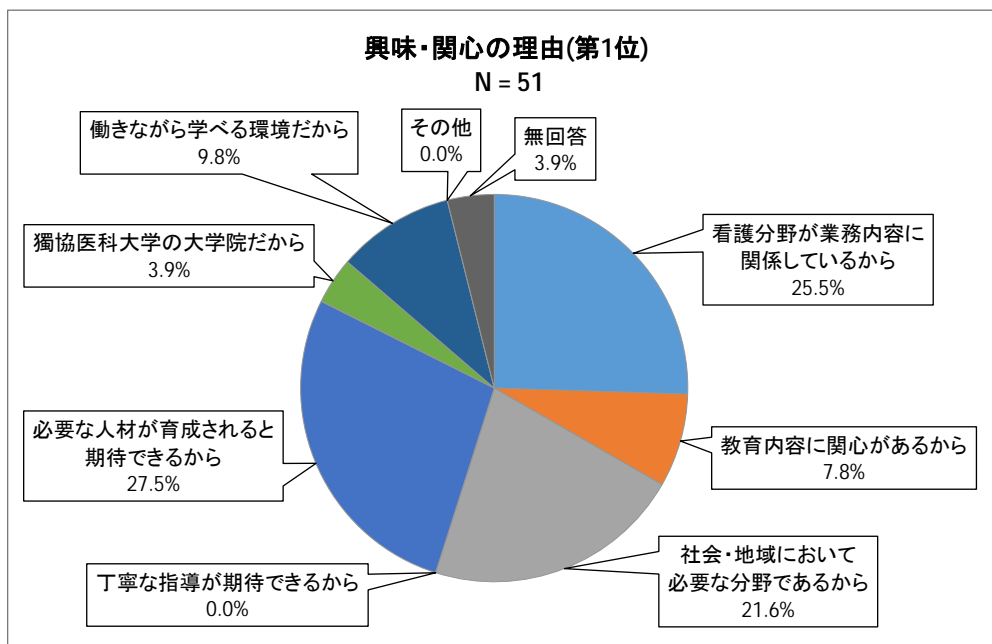
獨協医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻  
(博士後期課程)への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	15	28.8
2	興味・関心がある	36	69.2
3	興味・関心はない	1	1.9
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	52	100



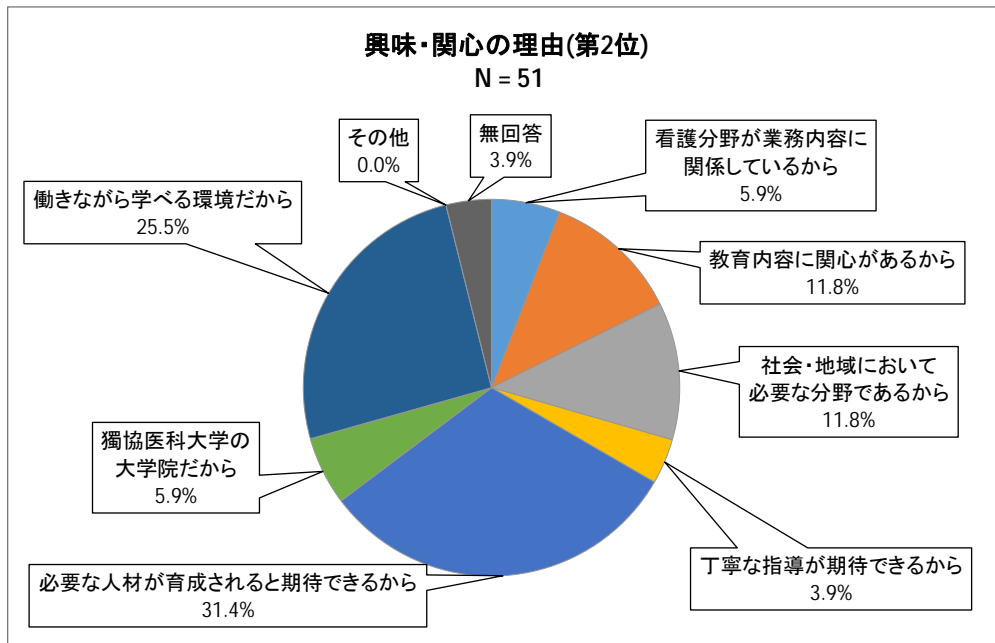
興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護分野が業務内容に関係しているから	13	25.5
2	教育内容に関心があるから	4	7.8
3	社会・地域において必要な分野であるから	11	21.6
4	丁寧な指導が期待できるから	0	0.0
5	必要な人材が育成されると期待できるから	14	27.5
6	獨協医科大学の大学院だから	2	3.9
7	働きながら学べる環境だから	5	9.8
8	その他	0	0.0
	無回答	2	3.9
	N (%ベ-ス)	51	100



興味・関心の理由(第2位)

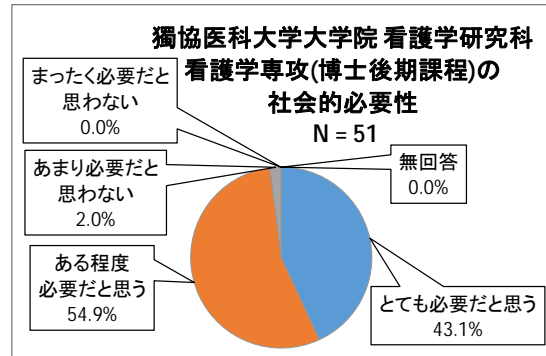
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護分野が業務内容に関係しているから	3	5.9
2	教育内容に関心があるから	6	11.8
3	社会・地域において必要な分野であるから	6	11.8
4	丁寧な指導が期待できるから	2	3.9
5	必要な人材が育成されると期待できるから	16	31.4
6	獨協医科大学の大学院だから	3	5.9
7	働きながら学べる環境だから	13	25.5
8	その他	0	0.0
	無回答	2	3.9
	N (%ベース)	51	100





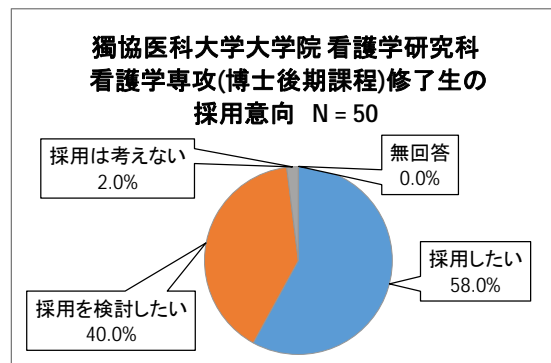
獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	とても必要だと思う	22	43.1
2	ある程度必要だと思う	28	54.9
3	あまり必要だと思わない	1	2.0
4	まったく必要だと思わない	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	51	100



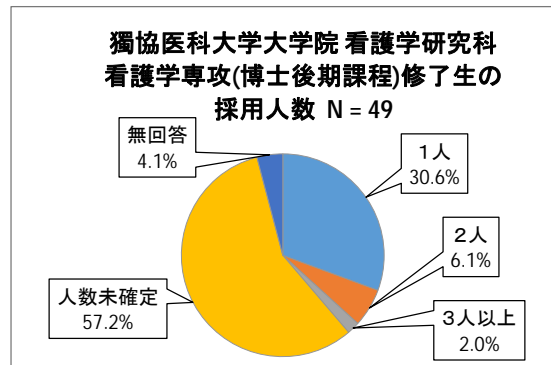
獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)修了生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	29	58.0
2	採用を検討したい	20	40.0
3	採用は考えない	1	2.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	50	100



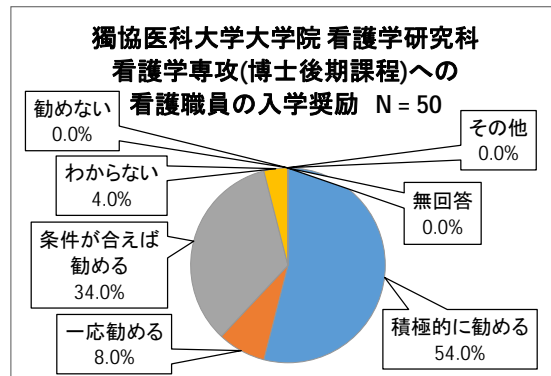
獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)修了生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	15	30.6
2	2人	3	6.1
3	3人以上	1	2.0
4	人数未確定	28	57.1
	無回答	2	4.1
	N (%ベ-ス)	49	100



獨協医科大学大学院 看護学研究科  
看護学専攻(博士後期課程)への看護職員の入学奨励

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に勧める	27	54.0
2	一応勧める	4	8.0
3	条件が合えば勧める	17	34.0
4	わからない	2	4.0
5	勧めない	0	0.0
6	その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベ-ス)	50	100



本県並びに北関東圏に所在する看護系博士後期課程における学納金（概算）

所在地	大学院名	研究科名 専攻名	学納金（円）
栃木県	獨協医科大学大学院	看護学研究科博士後期課程 （仮称）	2,000,000
栃木県	自治医科大学大学院	看護学研究科博士後期課程	2,039,400
栃木県	国際医療福祉大学大学院	医療福祉学研究科博士後期課程 保健医療学専攻	3,300,000
茨城県	茨城県立医療大学大学院	保健医療科学研究科博士後期課程 保健医療科学専攻	※1,889,400 2,171,400 ※茨城県内者
群馬県	群馬県立県民健康科学大学大学院	看護学研究科博士後期課程	※1,748,400 1,889,400 ※群馬県内者
埼玉県	埼玉県立大学大学院	保健医療福祉学研究科博士後期 課程保健医療福祉学専攻	※2,074,500 2,286,000 ※埼玉県内者
茨城県	筑波大学大学院	人間総合科学研究科博士後期課程 看護科学専攻	1,889,400
群馬県	群馬大学大学院	保健学研究科博士後期課程 保健学専攻	1,889,400

## 獨協医科大学大学院看護学研究科長期履修制度の取扱い要領

平成 24 年 4 月 1 日制定

改正 平成27年 4 月 1 日

令和 5 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この要領は獨協医科大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 6 条第 3 項の規定に基づき、獨協医科大学大学院看護学研究科（以下「研究科」という。）における長期履修制度に関し、必要な事項を定めるものとする。

(申請資格)

第 2 条 長期履修を申請できる者は、本学研究科に入学する者及び本学研究科の在學生（課程修了予定年次の者を除く。）であつて、次の各号の一に該当し、大学院学則第 6 条第 1 項に規定する標準修業年限内での修業が困難な者とする。

- (1) 職業を有している者
- (2) 出産、育児、介護を行なう必要がある者
- (3) その他、看護学研究科教授会（以下「教授会」という。）において認められた者

(長期在学期間)

第 3 条 長期履修の期間（以下「長期在学期間」という。）は 1 年単位とし、博士前期課程は 3 年、博士後期課程は 5 年を上限とする。

2 休学の期間は、前項の長期在学期間に算入しない。

(申請)

第 4 条 長期履修を希望する者は、次に掲げる書類を、別に定める期日までに、看護学研究科長（以下「研究科長」という。）に提出するものとする。

- (1) 長期履修申請書（様式第 1 号）
- (2) 長期履修が必要であることを証明する書類（在職証明書等）

(長期在学期間の変更)

第 5 条 長期履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）のうち、入学時に認められた者が、当該長期在学期間の短縮を希望する場合には、短縮される履修年度が始まる直前の 2 月中に、長期在学期間短縮申請書（様式第 2 号）を研究科長に提出するものとする。

2 長期在学期間の短縮は在学中 1 回に限るものとし、短縮を認めることのできる期間は、大学院学則第 6 条第 1 項に規定する標準修業年限までとする。

3 長期履修学生のうち、在学中に長期履修を申請し、これを認められた者については、当該履修期間の短縮を認めない。

4 長期在学期間の延長は認めない。

(許可)

第 6 条 第 4 条及び前条第 1 項の申請に対しては、教授会の議を経て、学長が許可し、本人へ許可証を交付する。

(長期履修の許可の取り消し)

第7条 長期履修学生が、学生としての本分に反する行為をしたとき又は長期履修に関し虚偽の申請をしたことが判明したときは、学長は、長期履修の許可を取り消すことができる。

(授業料)

第8条 長期履修を許可された学生の授業料は、標準修業年限分の授業料の合計額を、長期履修年数に応じて分割納入するものとする。

2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定年度から新授業料を適用する。

3 長期履修期間の短縮を認められた場合には、標準修業年限分の授業料から納入済額を差し引き清算するものとする。

(要領の改廃)

第9条 この要領の改廃は、教授会及び学長諮問会議の議を経て、学長が決定する。

附 則

この要領は、平成24年12月1日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

(様式第1号)

(様式第2号)

## 獨協医科大学大学院看護学研究科オープンキャンパス実施状況

年度	開催日①	個別相談参加人数
	開催日②	
令和元年度	8月1日	1
	8月2日	0
平成30年度	8月2日	0
	8月3日	1
平成29年度	8月3日	2
	8月4日	3
平成28年度	8月4日	1
	8月5日	0
平成27年度	8月6日	5
	8月7日	4
平成26年度	8月7日	3
	8月8日	2
平成25年度	8月6日	4
	8月9日	0
平成24年度	8月9日	3
	8月10日	6

※令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のため、看護学研究科紹介動画をホームページに掲載

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/exam/opencampus.html>



## 令和3年度 地域共創看護教育センター事業一覧

### ●地域貢献事業

- ・ 病気の子どもと家族のサポートグループ「つぼみ」
- ・ ボランティア「DMV」
- ・ First AED(ファーストエイド)
- ・ Mum & Dad Café
- ・ 感染症予防のための手洗い講習会
- ・ 地域住民による避難所運営シミュレーション事業 《ミブハグ》

### ●キャリア開発事業

- ・ Advanced Practice Nurse (APN) 看護研究会
- ・ 本学大学院専門看護師コース修了生に対するサポート事業
- ・ ジョイント講座
- ・ 慢性期看護が気になる人への OPEN ゼミ
- ・ 小児看護キャリアサポート「ChilD」
- ・ 助産学専攻科修了生と在校生及び助産師を目指す学部生のためのキャリア支援ネットワークの構築

### ●感染管理認定看護師養成事業（予定）

- ・ 令和4年度感染管理認定看護師教育課程の運営に係る事業
- ・ 看護師養成所専任教員の養成に関する情報収集

平成30年4月25日

文部科学省

高等教育局長 義本 博司 殿

公益社団法人 日本看護協会

会長 福井 トシ子



### 看護職の人材育成に関する要望書

医療提供体制の改革や地域包括ケアシステムの構築などの看護を取り巻く状況は大きく変化するとともに、看護を必要とする人々は複数の疾患や複雑な社会的背景を有するなど、患者像・利用者像も変化しています。このような状況下において、看護職には状況を的確に判断し対応するための看護実践能力の向上やニーズの多様化に対応した役割発揮が求められています。

つきましては、大学における看護師の育成および大学院における保健師・助産師育成についてご尽力を賜りますよう要望いたします。

#### 重点要望事項

大学における質の高い看護学教育課程の推進



## 要 望 事 項

1. 大学における質の高い看護学教育課程の推進
2. 大学院における保健師の育成
3. 大学院における助産師の育成



## 要望1

# 大学における質の高い看護学教育課程の推進

- 1) 看護学部・看護学科の設置と定員拡充に財政的措置を講じるとともに、4年間の看護師教育の推進を図られたい。また看護学の更なる発展のため、大学院修士課程および博士課程の積極的な設置を推進されたい。あわせて、看護教育専門官の増員等、看護学教育の支援体制を強化されたい。
- 2) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定にあたって重視された看護実践能力の育成に不可欠な臨地実習について、ガイドラインを策定されたい。
- 3) 社会人の学び直しに対応するため、各看護系大学において学士編入制度の導入が可能となるよう財政的支援・方策を講じられたい。

### 1) 看護学部・看護学科の設置・定員拡充および4年間の看護師教育の推進

- 大学で看護を学ぶ志願者の増加に対し、看護系大学の定員数の増加が追いついておらず、志願倍率は6倍以上となっている。大学で学びたいと志願する多くの人が、質の高い看護学教育を受けられるよう学部・学科の新設や定員数の増加が必要である。
- また、看護実践能力の育成をはかるため、4年間の看護師教育を推進することが必要である。
- 看護学の更なる発展のため、教育者・研究者や高度専門職業人の育成に向け、大学院修士課程および博士課程の積極的な設置が必要。
- 看護系大学・大学院の増加に対応するため、高等教育局において看護教育専門官を増員し、看護学教育を支援する体制の強化が必要。

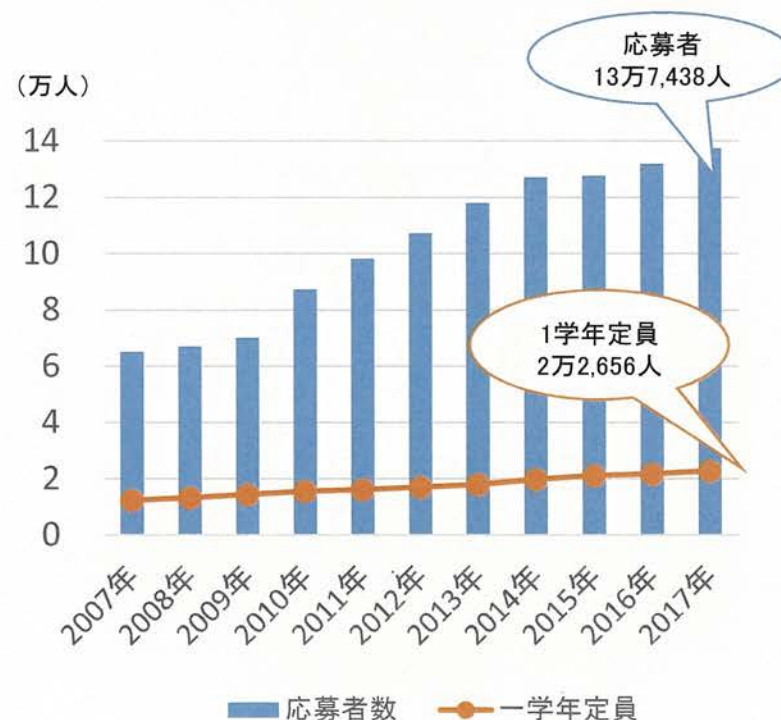
### 2) 看護学教育における臨地実習に関するガイドラインの策定

昨年、看護学教育モデル・コア・カリキュラムが策定され、看護実践能力の育成が重視されているが、看護実践能力の育成には、学んだ知識・技術を基に直接ケアの対象から学ぶことのできる臨地実習が重要である。そのため、医学教育や薬学教育と同様、看護学教育においても、臨地実習に関するガイドラインの策定が必要である。

### 3) 学士編入制度の推進

平成29年には2504名の学士保有者が看護職養成機関に入学しており、社会人の学び直しとして高いニーズがある。しかしながら、そのうち大学入学者は89名にとどまり、学士編入制度を導入している看護系大学は7校(入学定員67名)のみで増加していない。自身のこれまでの学びを活かし、質の高い教育を受ける機会として、各看護系大学での学士編入制度の導入が望まれるが、導入が進んでいない現状がある。

看護系大学における  
応募者数・一学年定員数の推移



## 要望 2

# 大学院における保健師の育成

質の高い保健師育成のため、大学院における保健師教育を推進されたい。

- これまでも保健師は、地域で生活する住民の健康を支援するため、多様な保健活動実践や施策化等を行ってきた。更に、入院から在宅へというパラダイムシフトの中、地域包括ケアシステムの中での在宅看護・療養には、様々な多職種連携・調整が必要であり、保健師には医学的な知識のみならず、社会学的・心理学的視点等からのケアマネジメントが必要になっている。

### 【地域の健康ニーズ(一例)】

- 慢性疾患や複合疾患を抱えながらの生活者への継続支援
  - 生活困窮者や生活保護受給者等への健康及び生活支援
  - 虐待や新しい感染症などの健康危機への迅速な対応
  - 精神障害者の退院促進や地域移行・地域定着の支援
  - 生活習慣病の発症予防・重症化予防
- 第104回保健師国家試験の合格率は85.6%(新卒者)と前回より大きく下回ったが、大学院及び養成所(1年)の合格率は全体平均、大学平均及び養成所(統合カリ)と比較し高い。保健師に特化した教育が重要である。
  - 大学院で保健師教育を受け保健師免許を取得した者は、ほぼ100%が保健師として自治体・事業所等へ就職をしている。

1)看護教育の内容と方法に関する検討会報告書 厚生労働省(2011)

## 大学院卒の保健師免許取得者の就職状況

平成30年3月末卒業予定者(保健師免許取得予定者)

大学院卒業者50名中、把握できた48人(10校)

→保健師としての就業が内定している者 45人/93.8%

(平成30年2月現在:日本看護協会/電話調査)

保健師学校養成所卒業者の国家試験合格者/7684人(新卒者)

→保健師としての就業者は12.6%(平成28年新卒者)

公益社団法人日本看護協会 健康政策部保健師課電話調査(平成30年2月)  
出典:平成28年 看護関係統計資料集

## 第104回保健師国家試験(平成30年3月発表) 基礎教育別合格率

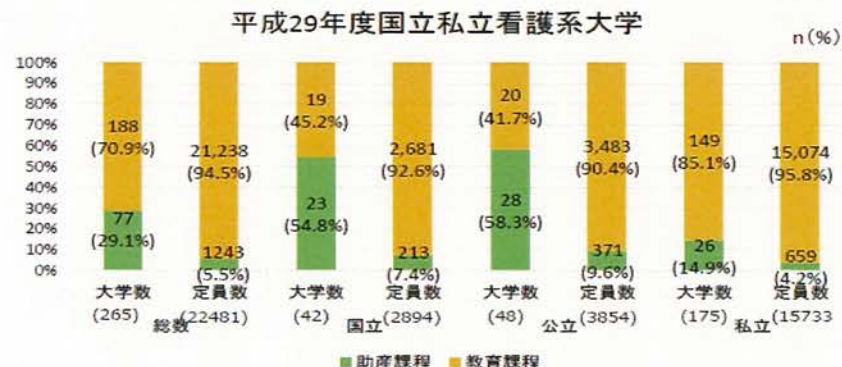
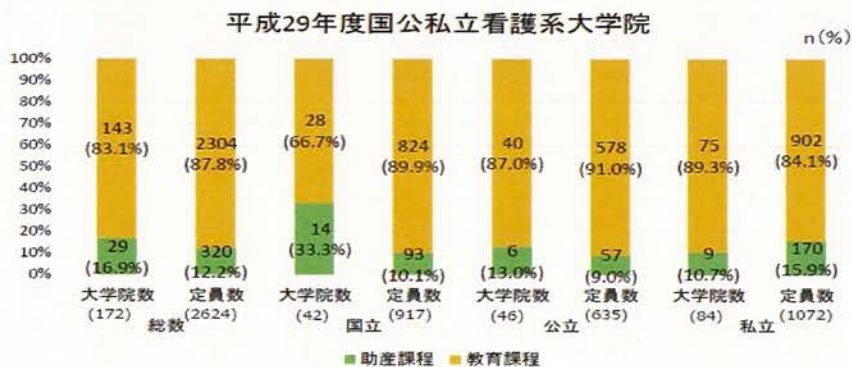


出典:厚生労働省国民生活政策局(第104回保健師国家試験学校別合格者状況)  
©日本看護協会が公開して算出した。(※30年3月発表 新卒者のみ)  
\*通称:新卒生ニュース(平成30年4月2日発行 第1959号より取読)

### 要望3 大学院における助産師の育成

大学院における助産師養成数の実態を把握し、質の高い助産師養成のために大学院における助産師教育を推進されたい。

- 平成21年の保健師助産師看護師法改正により、助産師養成の修業年限を「6か月」から「1年以上」に改正された。
- 国際助産師連盟の助産教育国際基準では、看護の基礎教育修了者に関する教育課程の最短期間を「18か月」としており、国内の助産関連団体等は、国際基準に賛同している。
- 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」(平成29年10月)(以下、「コア・カリキュラム」)は、「看護系の全ての大学が学士課程における看護師養成のための教育(保健師、助産師及び看護師に共通して必要な基礎となる教育を含む。)において共通して取り組むべきコアとなる内容を抽出し、各大学におけるカリキュラム作成の参考となるよう学習目標を列挙したものである」と明記している。
- 現在、4年制の看護系大学で265校のうち、77校(29.1%)において、助産師教育が行なわれており、学士課程内の教育では助産師養成のための教育必要時間は不足している。
- 日本産科婦人科学会「産婦人科医療改革グランドデザイン2015」では、助産師養成数を年間2000人以上まで増員することを明記しているが、大学院等における助産師養成数の把握はできていない。
- 大学院における助産師養成数の実態を把握するとともに、複雑化する出産環境に対応できる、質の高い助産師養成のために、適切かつ効果的な助産師教育の体制整備を検討する必要がある。



## 2 計画の基本理念

「質の高い医療を効率的に提供する体制を確保するとともに、保健・介護・福祉サービスと一体的に提供することによる、誰もが住み慣れた地域において健康で、安心して暮らすことができる環境づくり」

県民の視点に立ち、安全で質の高い医療を効率的に提供できる体制の整備充実を図るとともに、保健・介護・福祉サービスとの一体的な提供により、県民誰もが住み慣れた地域において健康で、安心して暮らすことができる社会の実現を目指して、計画を推進していくこととします。

## 3 計画の位置づけ

この計画は、次の性格を持つものです。

- (1) 本県の保健医療に関する基本的な指針となる計画
- (2) 医療法第30条の4第1項の規定に基づく計画
- (3) 栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」を踏まえた計画
- (4) 「栃木県医療費適正化計画」、「栃木県高齢者支援計画（はつらつプラン21）」、「栃木県健康増進計画（とちぎ健康21プラン）」、「栃木県がん対策推進計画」、「栃木県歯科保健基本計画」、「栃木県障害者計画（とちぎ障害者プラン21）」、「栃木県障害福祉計画・栃木県障害児福祉計画」、「とちぎ子ども子育て支援プラン」、その他保健、医療、福祉に関する諸計画と調和が保たれた計画

## 4 計画の期間

- (1) 平成30（2018）年度を初年度とし、平成35（2023）年度を目標年度とする6か年計画とします。
- (2) 在宅医療その他必要な事項については、3年ごとに調査、分析及び評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。また、保健医療に関する法制度の大幅な改正や社会情勢の大きな変化等が生じた場合にも、必要に応じて計画の見直しを行うなど、弾力的に対応します。

本県並びに北関東圏に所在する看護系大学における教員求人状況（過去4ヵ月）

（単位＝求人件数）

学校名	11月	12月	1月	2月	合計
足利大学			1	5	6
桐生大学		3		3	6
群馬医療福祉大学				7	7
群馬県立県民健康科学大学	2		1	1	4
群馬パース大学				1	1
筑波大学				1	1
群馬大学				1	1
上武大学				3	3
自治医科大学			1		1
				総計	30

（2022年2月25日現在）

令和3年10月19日

獨協医科大学  
学長 吉田 謙一郎 様

公益社団法人 栃木県看護協会  
会長 朝野 春美



### 獨協医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の設置に関する要望書

日頃より当協会の運営に際しましては、ご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、看護を取り巻く環境においては、超高齢社会から生じる2025年問題、多職種そして介護を含めた多機能連携、医療従事者の働き方改革など、極めて大きな変化が起こっています。さらに近年では、大規模自然災害や新型ウイルス感染症による健康被害が深刻化し、これまで以上にマネジメントが必要とされ、看護管理者が担う役割は大きいと考えます。

こうした中で、人材の育成、確保がなにより重要となっております。しかしながら、栃木県における看護職者の就業者数は全国でも依然として少なく、高度な専門教育を受けた看護職者を医療の現場に配置することが困難な状況が生じております。

この度、獨協医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の設置計画が進められているとのことですが、大学院博士後期課程の設置は当協会のみならず本県にとっても大きな貢献が期待できるものであり、その実現を強く要望いたします。

なお、設置に際しましては、当協会の看護師など地域の看護師が在職のまま修学が可能となるよう、昼夜開講、長期履修制度などについて、併せて要望いたします。

## 要 望 書

令和 3年12月16日

獨 協 医 科 大 学  
学長 吉田 謙一郎 様

栃木県看護部長会  
会長 細野 克子



獨協医科大学大学院における看護学研究科博士後期課程の開設について

貴大学が開設を予定している大学院看護学研究科の設置にあたり、臨床現場に働く現職看護師の専門分野の学習と看護学博士取得への道が開かれることを切に要望します。

### 記

1. 栃木県内の医療機関をはじめとする保健医療福祉関係機関に勤務する看護師に看護学博士取得の道を開くこと。
2. 栃木県内の看護業界の発展・高度化に資する教育者・研究者を養成すること。
3. 開講時間の工夫により、看護師としての実務と学修を両立することができるように配慮すること。

以上